

いじめ防止支援プロジェクト(BP)プロジェクト(事業成果報告書)



いじめ防止支援 プロジェクト

BPプロジェクト

事業成果報告書

BPプロジェクト連携大学

BPプロジェクト連携大学
宮城教育大学 / 上越教育大学 / 鳴門教育大学 / 福岡教育大学

目 次

学長挨拶 日本の学校教育のいじめ防止をめざして	2
鳴門教育大学長 山下一夫	2
宮城教育大学長 村松 隆	2
上越教育大学長 林 泰成	3
福岡教育大学長 飯田慎司	3
BP プロジェクトの説明と連携共同事業の紹介と報告	4
4 大学ごとの事業紹介と報告	16
宮城教育大学	16
上越教育大学	24
鳴門教育大学	32
福岡教育大学	40
参考資料	
(BP プロジェクトメンバー一覧 (平成 27 年度～令和 3 年度))	48





鳴門教育大学長
山下 一夫

2013（平成 25）年 6 月に「いじめ防止対策推進法」が公布され、同年 10 月に「いじめの防止等のための基本的な方針」が文部科学大臣決定されました。しかし、社会総がかりでいじめに対峙していくことが謳われているにもかかわらず、推進法にも基本的な方針にも、大学への期待や役割は何も言及されていません。大学、特に教員養成大学・学部にとって、いじめ問題に対していかに教員を養成・研修するかは重要な課題なのに。

そこで、私は、社会総がかりの一翼を担うべく自発的積極的に大学は行動すべきだと考えました。まず、2014（平成 26）年、いじめ問題研究の第一人者であり日本生徒指導学会会長である森田洋司先生（2019（令和元）年 12 月に逝去されました）に、本学の特任教授になっていただき指導願いました。さらに、宮城教育大学・上越教育大学・福岡教育大学の各学長にお会いして、いじめ問題に関して連携協力し取り組むことを提案したところ、大いに賛同していただきました。

2015（平成 27）年 4 月、この 4 大学が文部科学省の支援を受け、日本生徒指導学会、国立教育政策研究所等と連携し、いじめ防止支援プロジェクトを立ち上げることができました。そして、翌年には日本 PTA 全国協議会にも協力団体に加わっていただき、いじめ防止支援体制を強化しました。さらに、教育委員会をはじめ各地の関係機関とも連携し、いじめ防止に取り組んできました。

BP（いじめ防止）の種が、皆様と連携協力し取り組むことにより、この報告書にまとめましたように、この 7 年間で大きな成果をあげることができ、社会総がかりの一翼を担うまでになりました。これからも 4 大学は連携協力して、いじめ防止に取り組んでまいります。そして、社会総がかりの輪をより広くより強いものにしていきます。



宮城教育大学長
村松 隆

平成 27 年度にいじめ防止支援プロジェクト（BP プロジェクト（Bullying Prevention：いじめ防止支援））がスタートして、早いもので 7 年の月日が流れた。本学でも上越教育大学、鳴門教育大学、福岡教育大学や、文部科学省、各地域の教育委員会等関係の皆様との協力を得て、講演会や研修会、シンポジウムやフォーラム等を通して、いじめ防止に関する様々なコンテンツを学校現場をはじめとして社会に提供してきた。

学校におけるいじめ問題は、いじめ防止の在り方、アクションプラン、そして解決に向けた授業づくりと集団づくりに至るプロセスにおいて、総合的な知見での多角的で多面的な課題対応が求められる。教員養成を担う者として、学習者が安心して学ぶことができ、学習者の不安と疑念にしっかり寄り添える、適切な支援のできる人材の養成と育成が必要と今更のように感じる。

いじめ防止支援の一翼を担った者として言えることは、これまでの BP プロジェクトは、いじめ防止を多角的な切り口で策定し、私たちが協働で取り組む総合的アプローチとして、社会に様々な方法を提供したことである。これは、大学で学術を基底にいじめ要因を鋭く分析し、それに基づいて対処法をつくりアプローチ型の実践適応プログラムとして、応用性のよい有用度の高い成果を積み重ねたものとして評価できる。

本学は、今後も BP プロジェクトを通じて構築された地元の各機関とのつながりを生かし、各機関と協働しながらいじめ防止支援の取り組みを推進していく事で学校現場に寄与し、教員養成大学としての役割を十分に果たしていきたいと考えている。



上越教育大学長 林 泰成

BP プロジェクトは連携4大学の協働参加型プロジェクトとして平成27年度に始まった。本学も、その連携大学の一つとして、当時の学長佐藤芳徳氏の指示で、カリキュラム企画運営会議の下にいじめ等予防対策支援プロジェクト実施専門部会を設置し、事業をスタートさせた。当時、私は副学長およびカリキュラム企画運営会議議長としてこの専門部会の取りまとめ役を務め、昨年度末まで部会長を務めた。このBPプロジェクトの集まりでは、お亡くなりになられた鳴門教育大学特任教授の森田洋司先生をはじめ、斯界の第一線でご活躍の先生方と親しく交わらせていただいた。得難い経験であった。

本学では、こうした取り組みを受けて、令和2年9月に、当時の学長川崎直哉氏の指導のもと、「いじめ・生徒指導研究センター」を設置し、初代のセンター長として、本学教授高橋知己氏を指名した。現在では、このセンターを中心にいじめ問題の研修や教育研究にあたっている。

大学教員は、自分の研究領域では、大学を越えて、学会などの活動を通して情報交換を行っている。しかし、このBPプロジェクトでは、社会学や教育学、心理学や哲学などの様々な学問領域の専門家や、教育実践の場で経験を積んだ実践的研究者たちが集まって議論が展開していたように私は思う。当初よりご協力いただいている国立教育政策研究所や日本生徒指導学会ばかりでなく、現在では、(公社)日本PTA全国協議会にもご協力をいただいております。また、本学においてはこの地のPTAや教育委員会とも連携しながら、取り組みを進めているところである。財政的な措置は今年度で終了するが、この大きなプラットフォームとして構築されつつある試みを閉じることは惜しいことである。何とか今後も継続していきたいと考えている。



福岡教育大学長 飯田 慎司

福岡教育大学では、平成26年度より、「いじめ根絶を目指すアクションプログラム」を策定し、いじめ予防に資する一連の取組を行ってきました。このアクションプログラムでは、附属学校を活用し、現行の教科・領域等では十分に取扱いしていないいじめ予防に資する具体的なプログラムを開発して、試行し、改善を加え、公立学校で使えるプログラムとすることを目指しました。「いじめを生まない学級づくり」等の実践研究の成果は、ホームページ等による公表だけではなく、毎年度、福岡教育大学いじめ防止研修会を開催し、教育関係者並びにいじめ問題に関心をお持ちの一般の皆様に対して提案させていただきました。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ホームページ等による誌上発表になってしまいましたが、現行の教科・領域等の学習指導に際して、「いじめを生まない学級づくり」の視点が大変重要なものであると再確認することができました。

ここ数年間、本学の附属福岡中学校を中心として展開された実践研究の中のキーワードは、「関係づくり」と「コミュニケーション」であると思います。そして、ソーシャルスキルトレーニングを意識しながら、グループワークを充実させていくことが示唆されております。現行の教科・領域等の学習指導にアレンジしていくこともできそうですので、公立学校等でも参考にいただき、その成果をお伺いしていきたいと考えております。

4大学の共同(相互乗り入れ)授業は、本プロジェクトに相応しい大変ユニークな取組だと思います。宮城教育大学、上越教育大学、鳴門教育大学のBPプロジェクト関係の皆様、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

BP プロジェクトの説明と 連携共同事業の紹介と報告

BP プロジェクト（いじめ防止支援プロジェクト）とは

いじめ問題への社会総がかりでの取組

『いじめに悲しむ人たちをなんとかしたい』を出発点に、平成 27 年度に 4 つの教育大学（宮城教育大学・上越教育大学・鳴門教育大学・福岡教育大学）が共同してスタートした活動です。いじめ防止支援のため、学校現場への支援、いじめに立ち向かう教員の養成、いじめ防止の知見や研究成果の公表などに取り組みました。

設立の趣旨

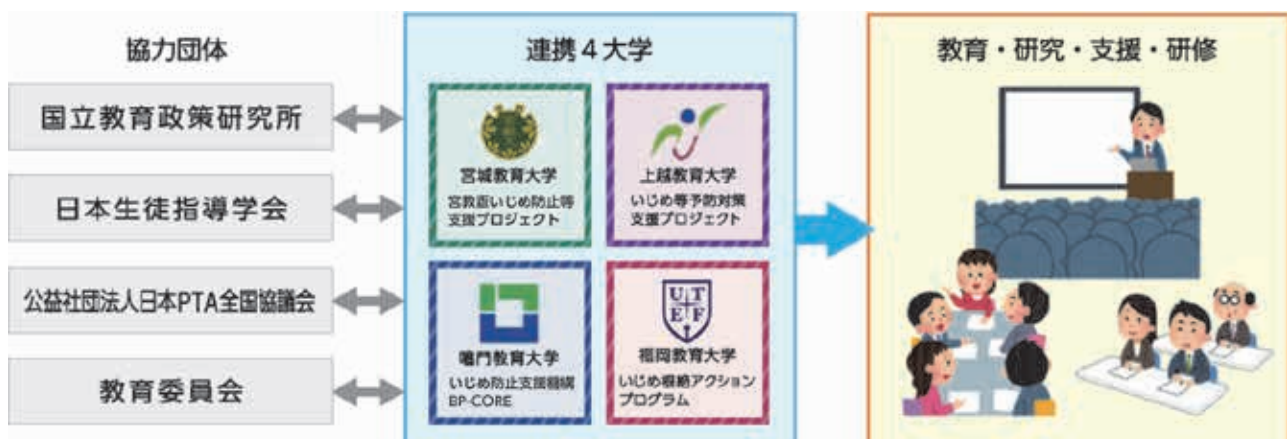
いじめの第 4 波とも言われた社会問題化の状況において、「いじめ防止対策推進法」が平成 25 年 9 月 28 日から施行され、児童生徒をはじめ学校関係者への支援を社会全体として行うことが求められています。

教員養成を担う教育大学は、いじめ問題に適切に対応していける教員養成にさらに力を入れるだけでなく、その専門的な知識と情報を駆使して、現在、教育委員会や学校が行っている教員研修や教育活動等について、これまでより一歩進んだ支援をしていくことが、その社会的使命であると考えております。

これまでも個々の大学教員レベルでは、教育委員会等からの要請に応じて、会議の委員や個別ケースのアドバイスなどの対応は行ってきたところですが、依然として解決困難なこの問題を今後改善の方向に導くためには、組織的かつ学内外のネットワークを駆使して支援していくことが必要と考えました。

そこで、教員養成大学の中で、地域の中核的な位置にあり、いじめ問題に関して特色ある取組を行っている 4 大学（宮城教育大学、上越教育大学、福岡教育大学及び鳴門教育大学）が、平成 27 年度に「BP プロジェクト（いじめ防止支援プロジェクト）」を立ち上げ、教育委員会や学校の教育力向上のための、各種支援事業、教育研究事業、研修事業等を協働参加型プロジェクトとして展開しました。

本プロジェクトは、平成 27 年度文部科学省特別経費（プロジェクト分）・平成 28 年度文部科学省機能強化経費として認められた事業として、「いじめ防止対策推進法」が求めている、関係者の連携による克服（第 3）並びに教員の資質の向上、教育相談者・助言者の充実、教職員の研修の実施等（第 18 条）の取組です。



BPプロジェクトの事業

プロジェクトの取組として、個々の大学の特色を生かし、4つの地域を拠点に学校への支援や教員養成、研究調査及び知見の公表を行っています。また、年に1回、東京で全国的なシンポジウムを開催し、取り組みの成果やいじめ防止に役立つ知見の情報発信を行っています。

(1) 支援事業

- ① 教育委員会のいじめ防止対策支援（法に基づいた教育委員会会議への参画等）
- ② 教育委員会の研修支援（講師の派遣，研修内容のアドバイス等）
- ③ 学校へのいじめ予防に関する教育支援（予防に効果的な授業等の紹介）
- ④ 重大事態など個別ケース相談支援
- ⑤ 子供の自己信頼心や社会性向上教育支援（いじめの背景にある現代的な子供の特性に対応した効果的な教育の紹介）

(2) 教育・研究事業

- ① いじめ問題に強い教員養成システム開発（大学・大学院の授業改善）
- ② いじめ関係研修プログラム開発（教育委員会等が行う効果的な教員研修プログラムのコンテンツを収集し，提供する。）
- ③ いじめ予防・対処・研修関連情報を Web で全国に発信（学校が行う効果的な予防的教育の事例，事件が発生した際の教育や対処の事例等を収集し，Web 等で広く提供）
- ④ シンポジウムの開催（教育研究の成果は，下記(3)の研修内容も含め，シンポジウムを年1回開催し情報発信）
- ⑤ 本プロジェクトを実施する4構成大学関係者を中心に，いじめ問題に関わる教育・研究従事者を集めた勉強会の開催

(3) 研修事業

教育委員会研修担当者・教員等への研修（いじめ問題関係の教育委員会研修担当者や学校教員等を対象とした研修会）を全国4か所（宮城，新潟，徳島，福岡）を起点として開催

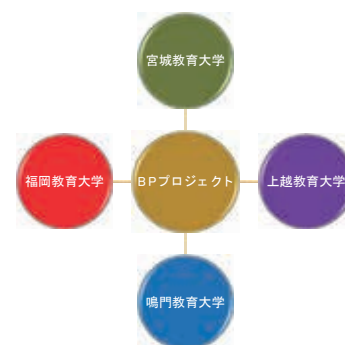
◇◇◇ BPプロジェクトによるいじめ問題への取組を文部科学省で展示 ◇◇◇

2018（平成30）年1月4日から2月9日まで、文部科学省2階エントランスにおいて、「STOP いじめ！ 教員養成大学と国・教育委員会・PTA・学会が連携し、決していじめを見逃さず、安心できる居場所を実現するために」と題し、BPプロジェクトによる成果を基にいじめ問題防止の展示を行いました。



大学連携・共同によるいじめ防止支援活動

BP プロジェクトは、協働参加のいじめ防止のための地域支援活動、教育・研究活動、研修活動を統合した情報発信、人的資源の交流活用と協同活動による学校教育及び地域貢献に寄与することを旨とする活動です。



支援事業

いじめ防止研修会、講演会への講師派遣

BP プロジェクトのシンポジウム等に参加いただいたり、HPなどで本プロジェクトの事業内容をお知りになった方々や自治体、学校より多くのいじめ防止に係る研修会の講師、講演会の依頼を受けて実施しています。



公益社団法人日本 PTA 全国協議会と連携しいじめ防止支援活動の展開



平成 29 年度からは、公益社団法人日本 PTA 全国協議会と連携しいじめ防止活動が展開されました。第 65 回日本 PTA 全国研究大会仙台大会を後援、特別第一分科会～「いじめ」何が起きているかを知る～において、故森田洋司鳴門教育大学特任教授が「子どもたちの豊かな心を育み、いじめが止まりやすい社会をめざして～今、私たちにできること～」と題した基調講演を行いました。

パネルディスカッションでは、研究課題を『「いじめ」何が起きているかを知る』とし、久保順也宮城教育大学准教授がコーディネーターを務め、阿形恒秀鳴門教育大学教授ほか 4 人のパネリストが、それぞれの立場（元小学校教員、元中学校教員、元高校教員、保護者等）から体験談と事例を紹介し討議を行いました。平成 30 年度は、第 66 回日本 PTA 全国研究大会新潟大会を後援、特別第一分科会～「いじめ」心の声に気付くには～において、阿形恒秀鳴門教育大学教授が「我が子のいじめに親としてどうかかわるか」と題した基調講演を行いました。



平成 31 年度は、第 67 回日本 PTA 全国研究大会兵庫大会において、特別第一分科会～「いじめ」心の声に気付くには～において、高橋知己上越教育大学教授が「いじめの未然防止、早期発見のために考える。」と題した基調講演を行いました。



いじめ防止支援シンポジウムの開催

年 1 回，4 大学で取り組んだいじめ防止のための事業の成果を報告し全国に発信

年に 1 回，東京で全国的なシンポジウムを開催し，4 大学における取り組みの成果やいじめ防止に役立つ知見の情報発信を行っています。本報告では，第 1 回（2016 年）～第 5 回（2020 年）のシンポジウムの概要を紹介いたします。また，QR コード及びリンク先のアドレスから，シンポジウムの内容や資料などを閲覧できます。

第 1 回 いじめ防止支援シンポジウム（2016 年）

<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2016022400023/>



平成 27 年度 BP プロジェクトいじめ防止支援シンポジウム

内 容

- **来賓挨拶**：義家 弘介 文部科学副大臣
- **講 演**：「いじめの問題に関する現状と課題」 坪田 知広 文部科学省初等中等教育局児童生徒課長
- **基調講演**：「いじめ防止対策推進法制定 3 年目を迎えて，今，改めて問い直すべきこと」
森田 洋司 鳴門教育大学特任教授
- **講 演**：「ネットいじめや「ケータイ（スマホ）問題」に関する
教師の知識の現状把握と指導の改善について」 阪根 健二 鳴門教育大学教授
- **パネルディスカッション**：「ネットいじめと教師の対応」
進 行 阪根 健二 鳴門教育大学教授
パネリスト 滝 充 国立教育政策研究所 総括研究官
久保 順也 宮城教育大学准教授
高橋 知己 上越教育大学准教授
大坪 靖直 福岡教育大学副学長
コーディネーター 山下 一夫 鳴門教育大学理事・副学長

平成 27 年度の BP プロジェクトの取組成果報告と情報発信として，平成 28 年 2 月 21 日（日）に東京駅前のステーションコンファレンス東京にてシンポジウムが開催され，全国から教育委員会関係者，教員，学生，一般など，約 150 人の方にご参加いただきました。

午前の部では，各大学学長によるいじめ問題防止に対する各大学の取組報告を交えた挨拶のほか，来賓として義家弘介文部科学副大臣による挨拶，坪田知広文部科学省初等中等教育局児童生徒課長による講演が行われました。

午後の部では、いじめ問題の研究では国内を代表する森田洋司鳴門教育大学特任教授（日本生徒指導学会会長）による基調講演が行われました。「認知件数の増加は問題が増えたのではなく、学校や地域の感性と教育力の高まりの表れである」と強調し、「軽微ないじめが初期だとは限らず被害を過小評価しないこと」の重要性を訴えました。森田先生のユーモアを交えながらも力量ある言葉に会場では緊張感が伺えました。



森田洋司特任教授基調講演

続いて、社会的注目度の高いネットいじめの防止について、「ネットいじめと教師の対応」と題し、阪根健二鳴門教育大学教授から講演及びパネリストに国立教育政策研究所の滝充総括研究官を招き、BPプロジェクト連携4大学の代表者らとディスカッションを行い、熱い議論が繰り広げられました。また、「ネットは匿名ではない、書き込みは証拠になると指導することが抑止力になる」「ネットいじめとはネット空間で行われている従来型のいじめの延長であることを認識すべき」などのいじめ防止の名言とも言える言葉も生まれました。



ディスカッションの様子

第2回 いじめ防止支援シンポジウム（2017年）

<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2017022700021/>



平成28年度BPプロジェクトいじめ防止支援シンポジウム

内 容

● 4 大学事業紹介：

「宮教大BPプロジェクトの特徴と研究成果について」	久保 順也	宮城教育大学准教授
「上越教育大学いじめ等予防対策支援プロジェクト」	稲垣 応顕	上越教育大学教授
「いじめ防止に係る学校支援事業」	阿形 恒秀	鳴門教育大学教授
「いじめ根絶アクションプログラム」	大坪 靖直	福岡教育大学教授

● 来賓挨拶：杉野 剛 国立教育政策研究所所長

● 基調講演：

「今、私たちに改めて求められていること～いじめ防止対策推進法施行後3年を振り返って～」
森田 洋司 鳴門教育大学特任教授

● 取組紹介：公益社団法人日本PTA全国協議会 副会長 東川 勝哉 東京都教育庁指導部 主任指導主事 小寺 康裕

第1部では、各大学の学長によるいじめ防止に対する各大学の取組報告を交えた挨拶のほか、プロジェクト開始後2年を経過した各連携大学の事業紹介が行われました。

**宮城教育大学の
BPプロジェクト・テーマ**

↓

特別支援教育といじめ

通常学級における発達障害児（疑いも含む）の
いじめ問題を中心テーマとする

鳴門教育大学教員による学校支援事業

【学校支援】

- * 職員研修での講演
- * 児童生徒・保護者対象講演会
- * 教員のケース会議での助言
- * 児童生徒による会議での助言

【教育委員会支援】

- * 研修会での講演
- * 関係組織への参画

プロジェクト推進の構想（平成27年～31年度）

<p>1 職員研修プログラムの開発</p> <p>特別支援教育に関する知識・技能の習得を支援する 大学側による研修・実践・評価</p>	<p>2 大学授業のカリキュラム開発</p> <p>教育実践のための大学授業のカリキュラム開発を行い 授業改善や教員養成に資する授業プログラムの開発・ 実践・評価</p>
<p>3 社会貢献としての研究結果の公開 （シンポジウム・フォーラム）の開催</p> <p>県教委や市教委等関係機関と連携しながらフォー ラムを開催し、その際ワークショップを開催しながら 成果を社会に公開することでのいじめ問題に対する認識 を深めようとする</p>	<p>4 研究と実践からなる小冊子の発行 （要 成果報告書）</p> <p>いじめの発生を予防したり、その対処法等に際する 継続的な研究を行うとともに、学校現場で活用できる実 践的なトレーニング法の開発を行うための中心 となる</p>

宮城教育大学

いじめ根絶をめざすアクションプログラム

- 取組1 大学と県内の各教育委員会が連携した取組
- 取組2 付属学校における予防授業開発の取組
- 取組3 解決事例や成果を大学のホームページで社
会に発信する取組
- 取組4 教員になる若い世代や保護者への教育や啓
発の取組
- 取組5 他の教育大学との連携した取組（鳴門教育大
学、宮城教育大学、上越教育大学）

福岡教育大学

本プロジェクトの協力団体である国立教育政策研究所の杉野剛所長から、同研究所が行っている「いじめの実態調査」から読み取れるいじめの発生現状や、同研究所が取り組んでいるいじめに関する調査研究を御紹介いただくとともに、「今後とも調査研究を継続し、その成果を教育委員会、学校現場、更には大学の研究者に適宜、提供していきたい」と述べられ、協力団体として大変心強い言葉をいただきました。また、本プロジェクトに対し「いじめ問題について、この4大学が中核となるネットワークを全国に広げていただき、教育関係者や学校現場のみならず、日本の社会全体に理解が深まっていくような取組を進めていただくことを心から期待します」との応援コメントをいただきました。

森田洋司鳴門教育大学特任教授（日本生徒指導学会会長）による「今、私たちに改めて求められていること～いじめ防止対策推進法施行後3年を振り返って～」と題した基調講演があり、「いじめ防止対策推進法に定義する『いじめ』の正確な理解の必要性」を訴えました。



森田洋司特任教授基調講演



平成 29 年度 BP プロジェクトいじめ防止支援シンポジウム

内 容

● 4 大学事業紹介と座談会：

「各大学・地域における BP プロジェクトの展開」 熊野 充利 宮城教育大学理事・副学長
 林 泰成 上越教育大学副学長
 阿形 恒秀 鳴門教育大学教授
 大坪 靖直 福岡教育大学教授

● 来賓挨拶：有松 育子 国立教育政策研究所所長

● 基調講演：「国の『いじめ防止基本方針』の改定とその趣旨

～文部科学省「いじめ防止対策協議会」の審議から～

森田 洋司 鳴門教育大学特任教授

● 取組紹介：公益社団法人日本 PTA 全国協議会

東京都教職員研修センター

副会長 齋藤 芳尚

統括指導主事 志村 安

第一部では、「各大学・地域における BP プロジェクトの展開」をテーマに、各大学より取り組みの報告と BP プロジェクトによるこれまでの成果を生かした座談会が行われました。



第二部では、本プロジェクトの協力団体である国立教育政策研究所から有松育子所長をお招きし、来賓挨拶の後、森田洋司鳴門教育大学特任教授より、「国の『いじめ防止基本方針』の改定とその趣旨－文部科学省「いじめ防止対策協議会」の審議から－」と題した、いじめに関する定義と認知の見直しについての熱のこもった基調講演、公益社団法人日本 PTA 全国協議会齋藤芳尚副会長による「日本 PTA 全国協議会のいじめ対策への取組」と、東京都教職員研修センター志村安統括指導主事による「東京都におけるいじめ防止教育推進のための取組」について、発表がありました。



平成 30 年度 BP プロジェクトいじめ防止支援シンポジウム

内 容

● 4 大学事業紹介：

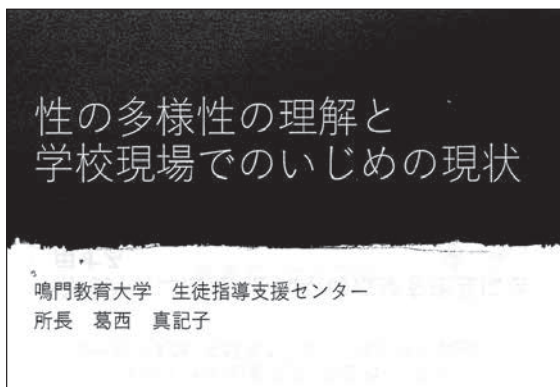
「BP プロジェクトの取組」	久保 順也 宮城教育大学准教授
「上越教育大学いじめ等予防対策支援プロジェクト」	林 泰成 上越教育大学副学長
「鳴門教育大学の BP 事業」	阿形 恒秀 鳴門教育大学教授
「いじめ根絶アクションプログラム」	大坪 靖直 福岡教育大学教授

● 来賓挨拶：永山 賀久 文部科学省初等中等教育局長

● 基調講演：「性の多様性の理解と学校現場でのいじめの現状」 葛西真記子 鳴門教育大学教授

● 取組紹介：公益社団法人日本 PTA 全国協議会 参与 佐藤 秀行 町田市立つくし野中学校 校長 天利 公一

● 講演：「いじめの総括～参加者との対話を通して～」 森田 洋司 鳴門教育大学特任教授



皆さんが今日からできること

1. LGBT+の基礎知識を友達や家族に話してみる（今日、こんな話を聞いたよ）
2. 普段の生活で、子どもが安心できるメッセージを発信しましょう
3. 「男」「女」で色分けしているものを見直してみましょう
4. 名前の呼び方を考えてみましょう
5. 性的マイノリティを笑いの対象にする言動や差別的な言動をみかけたら、見逃さずに指導しましょう
6. 子どもが相談しやすい先生になりましょう
7. 普段の自らの発言を見直してみましょう
8. 掲示物を見直しましょう
9. 性の多様性に関する本をよみましょう
10. 図書館や保健室、教室に性の多様性に関する本をおきましょう



葛西真記子教授





令和元年度 BP プロジェクトいじめ防止支援シンポジウム

内 容

● 4 大学事業紹介：

「特別支援教育といじめ」	久保 順也 宮城教育大学准教授
「上越教育大学いじめ等予防対策支援プロジェクト」	林 泰成 上越教育大学教授
「鳴門教育大学の BP 事業」	阿形 恒秀 鳴門教育大学教授
「いじめ根絶アクションプログラム」	大坪 靖直 福岡教育大学副学長

● 来賓挨拶：中川 健朗 国立教育政策研究所所長

佐藤 秀行 公益社団法人日本 PTA 全国協議会会長

● 基調講演：「学校でのいじめの本質・規模・影響を世界的視野で探る

～いじめ・ネットいじめ対策のためのユネスコ会議議長の警鐘～

ダブリンシティ大学教授 アイルランドいじめ防止研究リソースセンター所長
ジェームス・オヒギンズ・ノーマン

● パネルディスカッション：「日本のいじめ対策の成果と課題」

進 行 阿形 恒秀 鳴門教育大学教授

話題提供 葛西真記子 鳴門教育大学教授

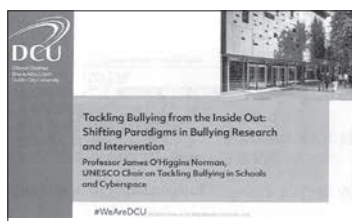
指定討論者 戸田 有一 大阪教育大学教授

金網 知征 香川大学准教授

ジェームス・オヒギンズ・ノーマン ダブリンシティ大学教授

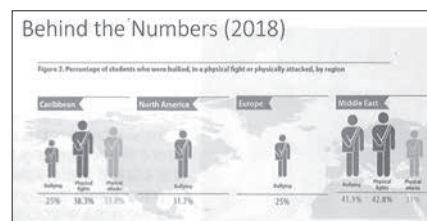


ノーマン教授に、「学校でのいじめの本質・規模・影響を世界的視野で探る－いじめ・ネットいじめ対策のためのユネスコ会議議長の警鐘－」と題して、ご講演いただきました。



Definition of Cyberbullying ネットいじめの定義

- グループまたは個人が、携帯電話またはインターネットを使用して、自分自身を容易に守れない被害者に対して、繰り返しつくづく実行する攻撃的で意図的な行為。(Smith, Mahdavi, et al., 2008)
- 匿名性
- 潜在的な大勢の観衆
- 広がり (Silca & Perren, 2013)



「日本のいじめ対策の成果と課題」と題して、パネルディスカッションを行いました。まず始めに、鳴門教育大学阿形教授及び鳴門教育大学葛西真記子教授が話題提供を行い、続いて、大阪教育大学戸田有一教授、香川大学金網知征准教授、ご講演いただいたジェームズ・オヒギンズ・ノーマン教授に加わっていただきディスカッションを行いました。参加者からは「貴重な話を多く聞くことができた」「いじめの定義から具体的な事例や様々な取組など紹介いただき参考になった」「今後に活かしていきたい」などの評価をいただきました。



教育事業 — 4 大学共同事業（相互乗り入れ授業）

4 大学で相互に他大学の教員がいじめ防止の授業を学部生・大学院生に実施し、通常カリキュラムでは得られない、いじめ防止の知見を得る機会を設定。

担当大学	受け入れ大学			
	宮城教育大	上越教育大	鳴門教育大	福岡教育大
宮城教育大学教員の講義		2019-11-21	2020-11-24	2021-12-13
上越教育大学教員の講義	2021-12-7		2019-10-29	—
鳴門教育大学教員の講義	2020-10-27	2021-12-17		2019-11-14
福岡教育大学教員の講義	2019-12-3	2020-10-30	2021-12-7	

授業の成果

受講学生の声

- 「ハイスクールアプローチ」と「ポピュレーションアプローチ」について、全ての子どもにしっかり目を向けなければいけないのだなと思いました。
- ポピュレーションアプローチの考え方は私が先生になる身として大切にしたい。
- ポピュレーションアプローチという考えを初めて聞いた。教員が目をかけているような生徒以外への対応の大切さが分かった。
- いじめが起こる原因から責任を負わせるのではなく、切り分けて考え、いじめを乗り越えていく人間関係の形成に携わることが、教員として必要な力だと思った。
- 教員になる上で、いじめ問題は避けて通れない所なので、もっと深く知りたい。
 など、将来自分が教員としていじめ防止にあたる上で役立ったという趣旨の感想が多数挙げられた。
 一方で、学校現場に出た際に不安を感じる点として、
- いじめた側、いじめられた側、それぞれにどのようにアプローチして改善するのか。
- 加害者側・被害者側の保護者への対応等。
 が挙げられた。さらに、今回の相互乗り入れ授業という試み自体に関する感想として、
- 他大学の授業を聞いて、とても良い機会だった。
- いじめ問題についての講義をただ受けるだけでなく、各大学の学生と交流・ディスカッションする機会があればおもしろそう。
 等といった好意的な意見が見られた。これらの結果から、今回の相互乗り入れ授業により「いじめ問題に強い教員養成システム開発」という目的が十分に達成されたと考える。

相互乗り入れ授業の様子

https://www.youtube.com/playlist?list=PLTdAXV6K7DQenkrxsuFrn_r3dUn-FckM2



2019 年 大坪教授（福岡教育大学）による共同授業（於：宮城教育大学）



宮城教育大学での相互乗り入れ授業として、大坪靖直福岡教育大学教授により、学部生対象の授業『児童生徒理解d』で行われた。授業は「いじめの予防ーハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ」のテーマで講義が実施された。予防医学の視点を援用したいじめ防止の講義が展開され、ハイリスクな者への介入だけでなく、集団全体への介入による予防戦略の必要性を強く感じた。当日は100名弱の学生が参加した。

2019 年 久保准教授（宮城教育大学）による共同授業（於：上越教育大学）



上越教育大学で相互乗り入れ授業として久保順也宮城教育大学准教授により行われた、大学院「生徒指導の理論と実践 Bーいじめ等先端課題の理論と実践ー」授業は、「いじめ加害・被害について考える」のテーマでの講義とP4C（＝Philosophy for children）によるアクティブ・ラーニングで構成され、当日は授業を受講する大学院生と教員が参加した。

2019 年 高橋教授（上越教育大学）による共同授業（於：鳴門教育大学）



鳴門教育大学での相互乗り入れ授業として、高橋知己上越教育大学教授により、学部生対象の授業「道徳教育指導論」で行われた。授業は「いじめの未然防止のために」をテーマとして講義が実施され、公開授業としたため、150名以上が参加した。グループワークなどアクティブラーニングによるいじめはなぜ発見しにくいのか」という問いに、参加学生全員が真剣に取り組んでいた。

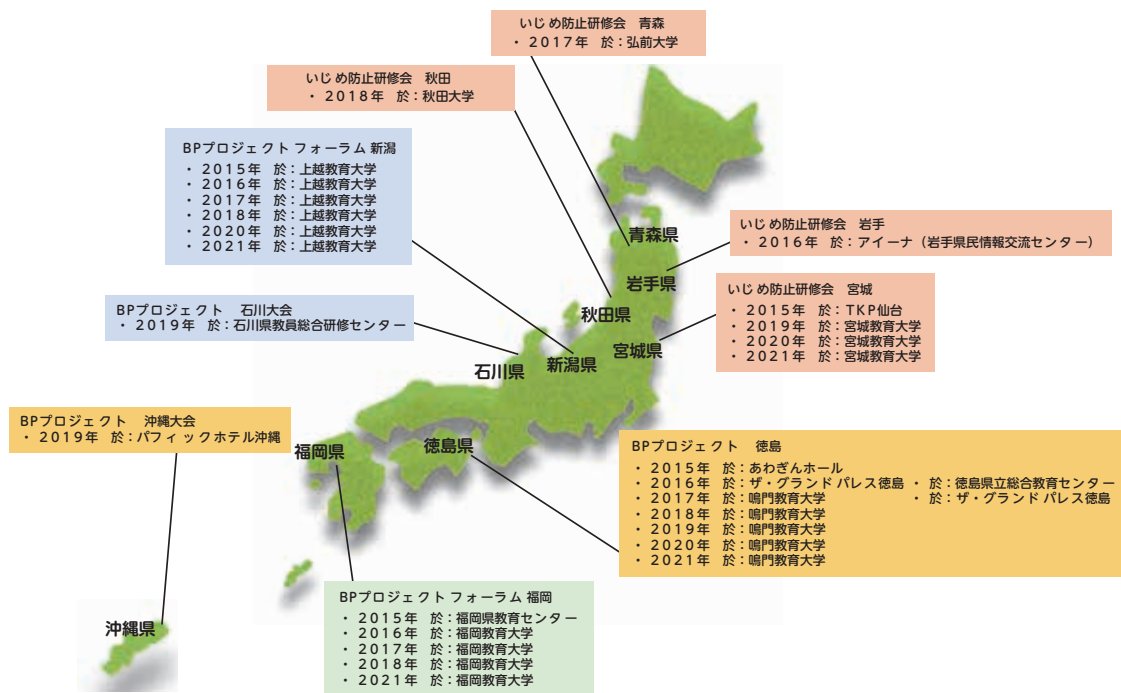
2019 年 阿形教授による共同授業（於：福岡教育大学）



福岡教育大学での相互乗り入れ授業として阿形恒秀鳴門教育大学教授により、学部生対象の授業「生徒指導 B」で行われた。授業は「いじめ問題の対策論と人間論」をテーマに、いじめ防止対策推進法でのいじめの定義について、法の定義と社会通念とのずれや、いじめ認知の要点など、いじめを深く理解する機会となった。グループワークでは、事例について学生が積極的に意見交換するなど、主体的にいじめ防止に向き合おうとする学生の姿が見られた。

研修事業

全国4か所（宮城，新潟，徳島，福岡）を起点として
教育委員会のいじめ問題関係の研修担当者や教員等を対象とした研修会の開催



2015年から2021年の7年間で、研修事業として4大学の所在地のみならず全国9カ所で30回以上の研修会を開催しました。各大学の報告に掲載されています。

成果報告資料

事業成果報告書



<https://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/archive.html>

BPプロジェクト中間報告書



<https://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/archive.html>

BPリーフレット



<https://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/archive.html>

事業総括

「特別支援教育といじめ」

教職大学院 久保順也

今年度（令和3年度）、BPプロジェクトは最終年度を迎えた。7年間にわたって本学では「特別支援教育といじめ」をテーマに掲げて調査研究及び研修活動を実施してきた。本稿では、これまでの活動をふり返り、7年間の活動の総括としたい。

これまでの活動について

宮城教育大学はBPプロジェクト初年度（平成27年度）、宮城県内の公立小学校・中学校・高等学校の学級担任を対象としたアンケート調査を実施し、通常学級に在籍するADHD（注意欠如／多動性障害）の特徴のある児童生徒がいじめ被害に遭いやすいこと、一方で周囲の児童生徒はむしろ当該児童生徒をいじめ加害者と捉えている可能性が高いことが明らかになった（Figure 1 および Figure 2）。

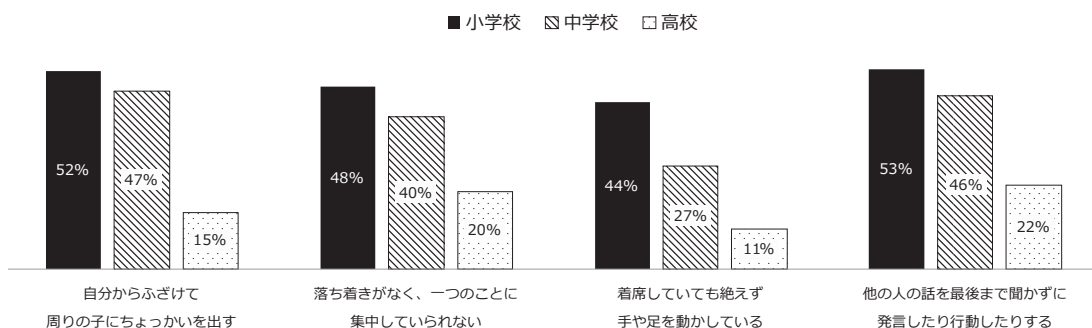


Figure 1 いじめ被害に遭っている「特定の子」の特徴
（「4 ややあてはまる」以上の回答割合）

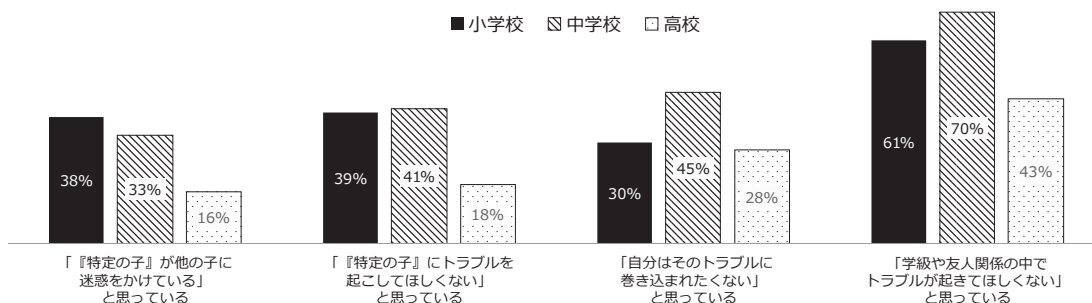


Figure 2 「特定の子」に対する周囲の児童生徒の捉え方
（「4 ややあてはまる」以上の回答割合）

これらの結果から、インクルーシブ教育の視点を踏まえた学級経営の必要性が示唆された。その後、特別支援教育コーディネーターへのインタビュー調査を実施したり（平成28年度）、現職教諭らの参加する研究会を実施して学級経営の実践事例の収集・分析を行ってきた（平成28・29年度）。平成30年度には、発達障害児のいじめ被害・加害に関する全国規模の実態調査研究計画が科学研究費補助事業に採択された（課題番号18H01005）。同年度内に調査が実施され、平成31年度（令和元年度）はその分析にあたった。分析結果は、本年11月にスウェーデンで開催されたWorld Anti Bullying Forum（WABF2021）にて、オンラインのポスター発表として公開することができた。

また本学BPプロジェクトの別の成果として、行政との連携が挙げられる。令和2年6月、仙台市はいじめ問題に特化した相談窓口として、仙台市いじめ等相談支援室S-KET（エスケット）を開設した。筆者は、この相談窓口の立ち上げ計画段階から携わり、開室後は心理相談の専門員として、いじめ等に関する相談に関与している。筆者がこの事業に関わるきっかけは、仙台市職員が数年前からBPプロジェクトに関心を寄せていじめ防止研修会やシンポジウムに参加していた縁からであった。

まとめに替えて

7年間にわたる本学BPプロジェクトの実践を振り返ると、教育現場から学んだことを再び現場に還元できたことが最も大きな成果だと感じている。

まず、発達障害のある児童生徒のいじめの実態についての調査結果は、教育現場の教員らが肌感覚で感じていた実態を、明確なエビデンスをもって示す重要な指摘となり得たと自負している。さらにそこから、通常学級において、発達障害のある子もいない子も同じように成長できる学びの環境を構築することを目指す「インクルーシブ学級経営」の発想が生まれ、優れた実践例を集めてリーフレットにして発信することで、現場の教員らに役立つ知見を提供することに繋がった。今年度は、そのリーフレットを更に充実させるべく、学部学生らによる「インクルーシブ学級経営」に関する新しい教材開発を実施することができた。また、BPプロジェクトの成果は、教員免許状更新講習等の機会を通じて現職教員教育にも還元されている。このように、教育現場から得られた知見を活用して教材を作成し、それを次世代の教員養成に繋げるという循環を作り上げることができたのは、7年間という長きにわたって取り組んできたからこそであると考えている。

何よりも、このBPプロジェクトの活動を通じて、連携する四大学間での繋がりが生まれたことは大きな成果であると考えている。それは相互乗り入れ授業という実践面だけではなく、いじめ防止という課題に取り組む仲間が各地にいることを再認識する機会にもなったという意味でも重要である。今後も、いじめ防止に取り組む関係者のネットワークが広がり、教育現場における子どもたちの学びが更に充実していくことを願ってやまない。

インクルーシブの観点における現職教員研修や授業の実践

教職大学院 植木田潤・本図愛美

1. 現職教職員の研修の要点

教職大学院での講義を始め、学校や教育委員会主催の現職教職員向け研修においては、以下の要点に基づいた研修を実施している。

まず始めに、学校現場において、主に発達障害のある児童生徒を含む通常学級における支援がうまく機能している、『モデル的な取り組みに共通していること』として、以下の6点が挙げられる。

- ① 授業のユニバーサル・デザイン化（UD化）
- ② 習熟度別・少人数授業
- ③ 個別的な指導の場の工夫（「通級による指導」を含む）
- ④ TTによる指導や支援員の活用
- ⑤ 教職員の意識・情報の共有、組織体制の整備
- ⑥ 個別の指導計画・教育支援計画の作成と活用

①は障害の有無に関わらず、様々なニーズのある児童生徒が通常学級で学ぶ上では欠かせない学級集団サイズの支援であるが、そうした学級サイズの支援では不十分となる児童生徒もおり、そのために②～④のように、より小さい集団サイズから、より個別的な関係性での支援まで、児童生徒の実態に合わせて集団のサイズを適宜柔軟に変更したり組み合わせたりすることができるような場を提供できる仕組み作りが重要となる。こうした①～④の支援の土台となる、⑤や⑥の校内体制の整備が不可欠なものとなる。つまり、通常学校における支援においては、「集団」での学びと「個別」的な指導とをバランス良く組み合わせる指導・支援することが重要であると言える。

さらに、こうした「集団」と「個」の学びを両立させるために不可欠な『学校内での共通基盤』として考えられる観点が、以下の3点である。

- ① 実態把握：子どもの認知特性・行動特性のアセスメント
- ② 具体的な実践事例の蓄積：校内の情報発信と流通、実践事例集等の作成など
- ③ 情報共有のシステム作りと活用：校内組織（支援委員会等）、指導・支援計画の活用

これらを簡潔にまとめれば、「実態把握と支援のノウハウの共有化」ということになる。例えば、既存の複数の校内委員会等に、上記①～③の役割機能を分担していくことで、より学級担任に負担が偏らず、校内全体で支援していく意識や動機付けが形成されていくものと考えられる。その際、留意すべきこととして、「合理的配慮」の観点から指導計画等に基づいた評価・効果の検証を行い、指導・支援の一貫性や継続性を絶やさないこと、また、一人一人の認知特性に応じた支援の在り方を検証しつつ、障害のある児童生徒の学びにくさの共有化を図ることで、情緒的なレベルでも教職員集団の支援に対する動機付けを高めていくことが重要となる。つまり、教職員にも指導や支援に対する安心感や安全感が不可欠な土台となっている。

上記の校内での基盤の上に、『「個別の指導」と「集団での指導」の成果を往還させていく』ためには、それぞれの指導の場において、以下の3点が期待される。

- ① 強みを活かした学び方、適切な支援方法、教材・教具の探求
▶子どもの主体性を尊重しつつ、自己肯定感の低下予防にも配慮する
- ② 障害特性を踏まえた、学び方・生活しづらさを軽減するための取り組み
▶ICT機器の活用、ユニバーサル・デザインの授業等

③ Social Skill Training, アンガーマネージメント等

- ▶本人の学びづらさ・生活しづらさに基づく「特性の自己理解」を支える取り組み
- ▶将来的な社会参加や自立を視野に入れ、妥当な進路選択が可能となるように自己権利擁護 Self-Advocacy の資質を涵養する

障害のある児童生徒においては、特性に因る学びの困難が大きいため、それらを改善することには時間や労力、忍耐力を求めるよりも、本人の特性に合わせ、視覚優位・聴覚優位のような“強み”を活かした学び方を追究すること、学び方のカスタマイズをしていくことが、つまり合理的配慮となっていく。こうした個別的な学びの追究は、学級集団のサイズでは困難でもあるため、例えば「通級による指導」等を活用した個別的な指導を通じて行われることが理想的である。

以上、大別して『モデル的な取り組みに共通していること』『学校内での共通基盤』『個別の指導』と「集団での指導」の成果を往還させていく』という3つの観点からインクルーシブ教育の観点から考えた教職員研修の要点をまとめた。

2. 「みんなの学校」視聴を通して考える、安心・安全な学校づくり

上述のポイントをふまえつつ、いじめの未然防止を含む、全ての子どもにとっての安心・安全な学校づくりについて、『みんなの学校』の視聴を題材に具体例についての考察を行った。それらは以下の通りである。

- 子供も叱られるし、先生も叱られる。子供も心から謝るし、先生も謝る。こんな学校を自分で作る、と先生も子供も思っている。教師が本気で向き合うこと、とことん寄り添うこと、もうだめだというような子にも優しさや輝きがあることを心から信じる対応する気持ちをもつこと。また、クラスの子や全員の前で「○○ちゃんは、こんなことするのが難しいんだ。こんなことを学んでこなかったから、なかなかできないんだ。」ということ、憚らず話していました。包み隠し、空気を読んで対応するのではなく、はっきり「こんなことが苦手、だからこうしてほしい」と伝えることがあってもいいと思いました。
- 大空小学校の凄いと感じたのは生徒指導の在り方である。生徒理解に始まり、子どもをみんなで育てようというのが校長先生を先頭に理念として、教員、子ども、保護者、更には地域の人にも理解されるように取り組んでいることが良く分かった。生徒指導は教科指導と違って、答えがない。だからこそ対応をコーディネートする存在が大事だと感じた。また、教職員が子どものことをみんなで理解していることも対応の速さに繋がっていたと感じる。自分の担当する学年や生徒に限らず気付いたことを伝え合う組織としてのまとまりが挙げられると思った。子どもの目線で考え、対応することで、学びの保障と安全を全ての生徒のしていることから、子どもたちの優しい繋がりが生まれる様子が垣間見えた。
- 安心・安全な学級・学校づくりの根底にあるのは『受容』と『愛情』と『信頼』だと思う。教職員と児童生徒にとってのホームになるような学級・学校を目指したい。チームでなくホーム。もっと温かくて、安心できる居場所という感じ。そのために、ひとりひとりの特性（ありのまま）の理解や、成長を信じて機会を与えること、目の前の子どもを自分の目で見て、一人一人を尊重することが大事だと思う。
- インクルーシブ教育システムの推進を行っている我が国において、この大空小学校は一つの目指すべき形なのだと思う。「全ての子どもの学習権を保障する」という理念は、障害の有無にかかわらず、家庭環境などさまざまな困難に直面している子どもを支えていた。安心・安全な学級・学校づくりにおいて、どのような困難があろうと子どもの学びを保障することがどのような場合でも基本となるのだと思った。そして、大空小学校は地域に開かれた学校であり、地域に求められていた学校であった。
- 発達段階に応じた適切な指導や対応があるのだと改めて感じる。いろいろな生徒対応のためのコツであったり、やり方を様々な場面で学んだり教わったりするが、最終的には人と人なんだと感じた。本当にその人のことを思いなにかしようと思うと関わろうとする気持ちが一番なのだと感じた。しかしその一方で、小学校ならうまくいくような対応でも中学校や高校では危険だなと感じることがある。はっきり言い切る物言いは小学生の発達段階ならわかりやすく迷いなく頑張れるかもしれない。しかし、中や高校ではすべての道を教師が指し示すことはできない。徐々に自分で自分の道を歩かなければいけない。

事業紹介

7年間で実施された各種プロジェクト

旧教員キャリア研究機構 プロジェクト研究

「いじめ防止に向けた地域に根ざした教員養成・研修の充実と支援の東北全体への拡大」として、BPプロジェクトにおける成果を学部2年「適応支援論A」や学部1年「教育の制度」、教職大学院1年「学校教育・教職研究C(リーガルマインド)」等の講義へと還元した。また、平成30年度の特例支援教育フォーラムにおいて「インクルーシブ教育の視点を活用した学級経営といじめ防止」をテーマとしてフォーラムを実施した。

仙台市いじめ防止学生ボランティア活動

仙台市において相次いで発生した中学生のいじめから自死に至った事案は、全国に大きな波紋を投げかけることとなった。その後、仙台市や仙台市教育委員会を中心に、改善に向けた様々な取組を行ってきている。教員養成を担う宮城教育大学としては、いじめを起こさせない力量を備えた学生を育てることが重要だと考え、いじめ防止に協力する学生ボランティア活動を創設した。

実施にあたっては、宮城教育大学が仙台市小学校長会・中学校長会、仙台市PTA協議会と連携し、「仙台市・いじめ防止プロジェクト」として、さらに多くの協力者を巻き込みながら推進しようと考えてきた。



学生によるいじめ防止教材作成プロジェクト

本学 BP プロジェクトメンバーが作成したリーフレット「子どもたちがみんな育つ インクルーシブ学級経営一年間」を元に、本学学生がいじめ防止に役立つ教材を考案するプロジェクトを令和3年度に実施した。6つのグループに分かれて数か月かけて作成された6つの教材には、学生達の柔軟なアイデアや個性が詰まっており、大変実用的な内容となっている。今後はこれらの成果物を有効に活用していくことで、本学のいじめ防止の取り組みをさらに推進していきたい。

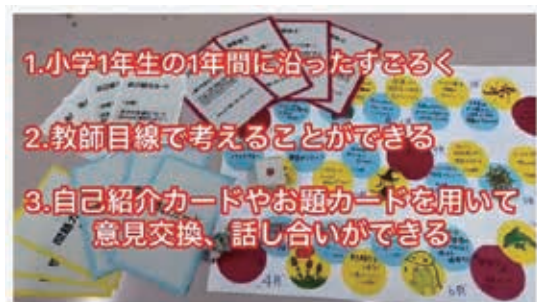
【教材をPRするために学生が作成した宣伝動画】



1班「子どもたちの悩みを解決リーフレット」



2班「中一ギャップマニュアルブック」



3班「小1プロブレムすごろく」



4班「中学校3年間ですごろく」



5班「合唱コンクールをめぐるトラブルと解決」



6班「中一ギャップすごろく」

いじめ防止研修会

本学では、平成27年12月4日（土）に実施した第1回を皮切りに、東北地域におけるいじめ防止研修会を毎年度実施し、令和3年12月18日（土）に開催した第7回まで、7年間にわたって研修会を実施してきた。研修会では、本学プロジェクトメンバーの他、連携する各大学や文部科学省、教育委員会や学校現場からも講師を招き、いじめ防止をテーマにそれぞれの立場からの講演を実施した。

1. いじめ防止研修会 次第（平成 27～令和 3 年度実施分）

本研修会の特筆すべき点として、東北各地へプロジェクト成果を還元したという点が挙げられる。平成 27 年度から平成 30 年度までは東北各県（平成 27 年度 宮城県、平成 28 年度 岩手県、平成 29 年度 青森県、平成 30 年度 秋田県）を会場とし、各県の教育委員会や大学の協力を得て、各県からの参加者を中心に研修会を実施する事で、本学が取り組む BP プロジェクトの成果を東北各地へ還元する事ができた。また、令和元年度は本学講堂を会場として実施したが、東北 6 県の教育委員会より、いじめ問題の担当者に研修会へのご出席いただき、研修会実施から数か月後に実施された追跡調査アンケート結果の共有も含めて、東北各地におけるいじめ防止の機運を高める事に寄与することができた。更に、令和 2 年度からの 2 年間は、オンラインによる研修実施により、これまで参加する事が難しかった遠隔地からの参加にも新たな可能性を見出す事ができた。

このように、7 年間を通じて実施してきたいじめ防止研修会を通じて、宮城県をはじめとした東北各県におけるいじめ防止の推進と、それによる関係機関とのネットワーク構築という点において、大きな成果を得ることができたといえる。

2. いじめ防止研修会 概要

令和3年度は、第一部において、本学久保順也准教授による講演「いじめの理解から対策・予防へ」を行い、続いて、仙台市教育局学校教育部教育相談課いじめ不登校対策班の及川悦彰主任指導主事による「いじめへの基本認識と組織的な対応」と題した講演を実施した。第二部では昨年度に引き続き、参加者が3つの分科会に分かれ、以下のよなテーマにてディスカッションを実施した。

【分科会1】

いじめ対応実践事例の理解『『仙台市いじめ対策ハンドブック』』を読み、その内容を元に意見交換をしましょう』

【分科会2】

インクルーシブな学級経営「あなたのクラスの生徒の保護者から、Aさんが授業中騒ぐ、我が子をからかっている、Aさんをなんとかしてほしいと連絡があったら、どうしますか」

【分科会3】

いじめ防止のための授業づくりと評価の方法「いじめ防止の授業を行ったとしても、子どもたちにそのような力が育ったと本当に言えるのでしょうか」

いじめ防止研修会

日程 令和3年 **12月18日(土)** 13:00~16:10 **参加無料**

会場 宮城教育大学 (ZOOMもしくはgoogle meet) によるオンライン開催

対象 ●教育関係者 ●大学生、大学院生等 ●現職教員 ●遠隔大学関係者 (人数100名程度) (事前登録制)

13:00-13:10 開式挨拶 宮城教育大学 村松 隆

●第一部 講演

13:10-13:20 講演「いじめの理解から対策・予防へ」 宮城教育大学 久保 順也

13:50-14:10 講演 仙台市教育委員会教育相談課いじめ不登校対策班 主任指導主事 及川 悦彰

休 憩

●第二部(ワークショップ)

14:20-14:30 仙台市「いじめ対策ハンドブック」の内容、インクルーシブな学級経営、授業づくり、子どもを守るための防止のための、やらアツを初め、課題解決の話し合いを行います。

14:30-14:40 【いじめ防止実践事例の紹介】

14:40-14:50 【いじめ防止実践事例の紹介】

14:50-15:00 【いじめ防止実践事例の紹介】

15:00-15:10 開式挨拶 宮城教育大学 遠隔大学関係者 久保 順也

主催 宮城教育大学 (協賛) 上野教育大学、専門教育大学、福野教育大学 (協賛) 宮城教育委員会、仙台市教育委員会

申し込み締切日 12月11日(土) (申し込み締め切り21:00) 申し込みは専用ページにておこなってください。申し込みは下記URLからお願いいたします。

申し込みURL https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLs1MvG0-V3D-qz278_8BQ4YF8W0W4C3Ry29794Qk4ViewForm

お問い合わせ先 本学 企画課

宮城教育大学 共創支援課 ☎022-214-3709 ☎022-214-3342 muebproject@gmail.com

今後の活動に向けて

7年間にわたるいじめ防止支援プロジェクトへの参画を通じて、宮城教育大学では、東北各県の教育関係者等へ向けた「いじめ防止研修会」を毎年度実施し、東北各県における学びの機会を提供してきた。また、「特別支援教育といじめ」をテーマに、全国的な調査研究を展開することで、プロジェクト成果の社会への還元を図ってきた。更に、「インクルーシブ学級経営の事例研究」の実施や、仙台市教育局と連携して実施した「仙台市・いじめ防止プロジェクトにおけるいじめ防止ボランティア」の活動を通じて、プロジェクト成果の学生への還元という点においても、一定の成果を得る事ができた。このように、これまでのプロジェクト期間を通じて様々な取り組みを行い、いじめの防止につながる実績を積み上げられた事は、大変貴重な財産となっている。

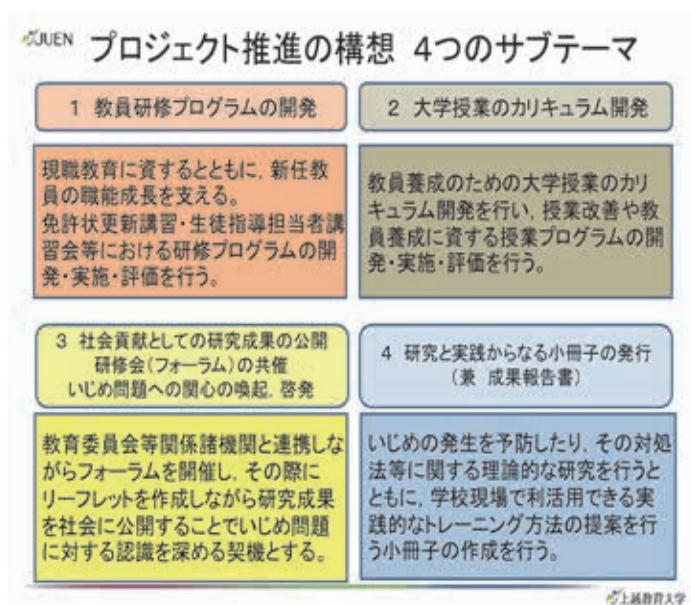
宮城教育大学における来年度以降の活動については、これまでのプロジェクト成果を有効に活用しながら、「東北学校教育共創機構」を中心に、いじめ防止や不登校対策等の学校課題を解決するための具体的な活動を加速していく事を予定している。

また、本プロジェクトを通じて構築されたつながりを生かし、今後もいじめ防止の取り組みを推進して参りたいと考えている。

事業紹介

いじめ等予防対策支援プロジェクト

平成 27 年度から令和 3 年度まで重要な教育課題の一つである「いじめ問題」への対応として、上越教育大学では「いじめ等予防対策支援プロジェクト」として BP プロジェクトに参加し、4つの活動の柱（サブテーマ）を設定して取組んだ。



1. 教員研修プログラムの開発

1つ目は「教員研修プログラムの開発」である。取組の成果が、やがて現職教員や新任教員の職能成長に資するものとなることを期している。そのため教員免許状更新講習や生徒指導担当者研修会等における実施可能なプログラムの開発を行い実施することをめざす。

2. 大学授業のカリキュラム開発

2つ目は「大学授業のカリキュラム開発」である。教育大学として教員志望の学生を養成している本学においていじめ予防のカリキュラムを開発することには大きな意味がある。授業のカリキュラムの中で本プロジェクトの成果などを積極的に学生や大学院生に公開していくことを企図する。

3. 社会貢献としての研究成果の公開

3つ目は「社会貢献としての研究成果の公開」である。関係機関と連携しながら、基本的に毎年度ごとにフォーラムやシンポジウムを企画・開催する。それと連動させながらリーフレット等の冊子を作成・配布して研究成果を公開することで、いじめ問題への関心を喚起していくことを狙いとする。

4. 研究と実践からなる小冊子（成果報告書を兼ねる）の発行

4つ目は「研究と実践からなる小冊子（成果報告書を兼ねる）の発行」である。本プロジェクトを遂行するにあたり、理論的実践的な研究から得られた知見を学校現場で実際に活用できるように還元する。

平成 27 年度

プロジェクトがスタートした平成 27 年では 10 月 4 日（日）に「いじめ防止研究の最前線」と題し、「社会貢献としての研究成果の公開」の一環として、第 1 回目の BP プロジェクトのフォーラムを本学にて開催した。

当時 BP プロジェクトメンバーだった山田，稲垣，高橋の 3 氏が基調講演を行った後，新潟県教育庁義務教育課副参事井上正裕氏，国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター統括研究官藤平敦氏が指定討論を行った。両氏からは異口同音に，本プロジェクトが目指すところについて，「予防」「未然防止」「早期発見」「初期対応」などの様々な言葉が使われている中で，「予防対策支援」を謳うのであれば，早期発見や初期対応が必要とならないような予防や未然防止を目指さなければならないのでは，との指摘をいただいた。さらに本学におけるプロジェクトの研究開発においても，「いじめ予防」に焦点づけていくことで，「子どもたちの変化」を軸とした学習プログラム，プログラムの評価，アンケートの分析が重要になるであろうことが確認され，そのための教育プログラム開発が課題となっていくことが確認された。第 1 回目のシンポジウムでのこうした方向付けがその後の展開の基盤となっている。



平成 28 年度

本格的に BP プロジェクトによる活動を展開し始めた平成 28 年度からは，「大学授業のカリキュラム開発」への取組を行っている。現在のいじめ・生徒指導研究センター長である高橋は平成 28 年 6 月 2 日，9 日，16 日，23 日の 4 回（90 分×4）。「初等特別活動論」の講義内で特別活動を活用した学級経営のあり方，生徒指導につなげる特別活動，というねらいのもとにいじめ防止に係る授業を計画した。履修者は大学 2 年生が 167 名，大学院生（1～3 年）61 名の計 228 名である。会場は講義室としては学内で最も大きい階段教室で行われた。



具体的な授業内容は以下の通りである。1 回目：いじめの認知件数の変遷，森田ら（1986）による四層構造論，いじめ防止対策推進法に関する理論的学習を行った。2 回目：「いじめを防ぐための対策を考える」というテーマで 5～6 人をグループにし，アクティブラーニングを行った。その際には，同じコースやサークル等，同質的な集団づくりを避けるように教示を与えた。グループごとにディスカッションした結果は，授業の最後に発表してもらった。質疑を経ながら提出された意見を板書し，共通理解を図った。3 回目：2 回目で提出された意見をリライトして 74 項目からなる対策項目として選出し，有効かどうかを再度 2 回目と同じメンバーによる討議を行わせた。その後，有効と思う度合

いについて選定するための方法を話し合い 10 件法で回答し集計することとした。4 回目：回答した結果を得点化し集計し提示したあと、いじめの予防（リスクマネジメント）と事後対応（クライシスマネジメント）について講義を行った。

履修者は、2 回目以降はグループ学習を中心としたアクティブラーニングを取り入れたが、活発に討議する様子が見られた。調査協力者から、記入漏れや不明瞭な記入があったものを除いて、いじめの対策として有効だとする回答者は 187 名であり、この回答を分析対象とした。回答を得点化したら平均得点 6.09、標準偏差 1.75 であった。得点のこの 187 名分の回答を調べたところ、いじめの対策に有効であるとされた上位・下位 5 項目を以下の表に示す。

順位	上位 5 項目	平均得点	順位	下位 5 項目	平均得点
1	教師間の情報共有	8.09	1	先生との間でメール	3.35
2	保護者との連携	7.95	2	マンガ（教室におく）	3.56
3	クラスの雰囲気づくり	7.57	3	先生とホットライン	3.78
4	子どもが言いやすいような関係づくり	7.44	4	アロマでリラックス	3.94
5	いじめの教育・道徳	7.43	5	1 分間スピーチ	3.95

上位にあげられた 5 項目は、順に「教師間の情報共有」「保護者との連携」「クラスの雰囲気づくり」「子どもが言いやすいような関係づくり」「いじめの教育・道徳」であった。「教師間の情報共有」は、平均得点は 8.09 と高く、標準偏差は 1.40 と平均の標準偏差より低くなっている。これは項目に関する共通認識が高く、多くの学生が情報共有の大切さを認識していることがわかる。下位の項目は、最初選定されたが話し合いを通して整序されたと考えられる。上位に選ばれた項目は、システムとしての機能の重要性、教師の環境づくり、保護者との連携、いじめ防止教育の推進など、一般的に重要と思われる事項を含んでおり、学習の成果として一定程度の効果はあったと考えられる。階段教室での実施ということで、グループワークはしにくかったと思われるが、熱心な討議の姿勢が見られた。グループの話し合いの結果を板書し、点数化を記入してもらったデータを翌週に授業で活用する、というカリキュラムの展開は、集中力と課題の明確さを確保するうえでも効果的であったと考えられる。今後さらに適切な学習材の開発と提供を検討したい。

平成 29 年度

平成 29 年 6 月 22 日（木）上越教育大学において、平成 29 年度研修会『教員養成大学におけるいじめ授業の在り方を考える』－授業参観と研究協議会－を開催した。本学大学院学校教育研究科稲垣応顕教授の大学院修士課程授業科目「いじめ等先端課題研究特論」の授業及び高橋知己准教授の学部授業科目「初等特別活動論」を連携大学の BP プロジェクトメンバーに参観いただき、その後の協議会で教員養成大学の授業において、いじめ問題についてどう学生に伝えていくか等について活発な意見交換が行われた。大教室でアクティブラーニングを取り入れた本授業を、新潟県教育委員会高等学校教育課関係者も参観された。

また、新潟県教育委員会主催の『深めよう絆県民の集い（上越地区）』『ストップ・ザ・いじめ－本音と本気で－』（H29. 10. 1 開催）及び



新潟市教育委員会共催の「新潟市いじめ防止市民フォーラム」(H29. 9. 23 開催)において、本学のBP プロジェクトメンバーがコーディネーターや講師を務めるなど学外への社会貢献に向けた活動を拡大している。

平成 30 年度

「教員研修プログラムの開発」に係る取組として平成30年度の教員免許状更新講習において「いじめ・子供の危機について考える」という講習を実施した。新潟県内の上越市、佐渡市、長岡市の三会場で、合わせて256名が受講している比較的多人数が申し込むプログラムである。受講者は6時間の講義・演習に対して非常に熱心に取組み、事後アンケートでも今後活用したいとする評価が得られている。ここでは、当該講習のプログラムについて概観しながら、より良い研修プログラムの在り方について考えたい。

講習プログラムは、三会場共通で概ね5時間の講義・演習、1時間の認定試験という6時間の構成に加えて短時間での回答をお願いするアンケート調査という日程で行われる。5時間分の講義・演習内容は次のように設定した。

- ① いじめ事例の分析－発生のメカニズム－：イントロダクションも兼ねた最初の講義では、いじめ防止対策法の解説やいじめの四層構造論などいじめに関する基本的な理論や法令について概観した後に、実際のいじめ事案について紹介しながら、いじめ問題への関心を啓発していく。
- ② 学校対応のあり方：実際に発生したいじめの重大事案のうち、インターネットを介して公開されているいじめ報告書を資料として用いながら、リスクマネジメント、クライシスマネジメントといった観点から学校対応のあり方について学ぶ。
- ③ 子どものみとり－アセスメント－：特にいじめの発見に焦点を当てて実際に行われているアンケート調査をもとにしてその問題点について考えるとともに、実際のいじめアンケート調査の被調査者の声を分析しながらよりよい調査方法について検討する。
- ④ インシデントプロセス法による事例研究会：講習に参加する教員の経験してきた事例について交流しながら、困った事案に共感しながらよりよい対応等について検討する演習を行う。
- ⑤ これからの学級経営：いじめ防止のために学級経営の中でできることを具体的に3つ提案し検討する。その3つとはスキルトレーニングをベースとした「避難訓練」「アンケートの工夫」「教師と生徒のトイレの共有」である。

講習後の受講者の反応としては、例えば、②学校対応のあり方においては具体的にモデルを示して講習を行ったが、受講者からは概ね好意的な反応があった。講習・演習を通じて、いじめに関する知識、学校対応を学ぶ際に、基本的な事項に関する知識や事柄を学ぶことも必要であるし、獲得したいという要求もあるのだが、それが具体的な提案という形で提案することが大きなポイントとなると思われる。具体性や実践的ということが教員研修プログラムの開発にとって重要なキーワードとなっていくという知見が得られたと考えられる。

令和元年度から実施されたBPプロジェクトの「相互乗り入れ授業」として、11月21日（木）に宮城教育大学から久保順也先生をお招きし、大学院における『生徒指導の理論と実践Bーいじめ等先端課題の理論と実践ー』で当該事業を行った。授業は、『いじめ加害・被害について考える』のテーマでの講義とP4C（= Philosophy for children）によるアクティブラーニング様式で実施された。



前半の講義では、まず、文部科学省（2018）のデータによる、今日的ないじめの原因・動機またいじめの様態が示され解説が加えられた。次いで、宮城教育大学による特別支援教育に係る「発達障害児のいじめ被害の実態調査」の結果である①「特定の子」のトラブル被害の様態、②「特定の子」の特徴、③周囲の子の（いじめに対する）捉え方などが紹介された。

後半はP4Cの方法がガイダンスされた。この手法は、参加者が円（サークル）の形で座り、話題に関連する意見や疑問を自由に語り合うことが主な活動である。自分が話したくなつた際には挙手をする。前に話していた人から柔らかいボール（当日は、「アックン」と名付けられた両手に収まるほどのイルカのぬいぐるみ）を受け取ってから話すというルールがある。久保先生から、ディスカッションのテーマとして①「人をいじるのって悪いこと？」②自分が嫌な人がいじめられていた時、やめるように言う？言わない？それは何故？③何故、私たちは「いじめられる方にも悪いところがある」と考えてしまうのであろうか？が示された。

学生たちからは、特に「②」において「嫌な人でもそうでなくても言わない（言えない）。巻き込まれるのが嫌」「相手が誰であろうと言う。いじめを助長しているようで気持ちが悪い」「みんなの前では言えないが、その分、先生に言う」など。「③」については、「人とかかわりの中では、どうしてもそう思うことはある」「いじめられる子は、転校してもいじられる傾向が強い」「③を言えない社会情勢は怖い。言うとな問題になるのだろうかけれど、言わないのは陰湿。みなで、オープンに考えられる方が健全」などの発言が見られ充実した時間となった。

令和 2 年度

令和2年9月1日より「上越教育大学いじめ・生徒指導研究センター」が発足し、BPプロジェクトに関する事業を所掌することになり現在に至っている。そのためWEBページも充実させ、BPプロジェクトの取組について、内外に広く公開し、社会貢献を果たしていこうとしている。

周知のように令和2年度は新型コロナウイルス感染症が蔓延し、事業計画のほとんどが計画通りにいかなかったのは残念であるが、今後の発展のために再度計画を練り直した一年でもあった。



BPプロジェクトの最終年度である令和3年度はこれまでの集大成として、また更なる発展を目指していろいろな取組を行ってきた。その中でも特に成果として二点を取り上げたい。

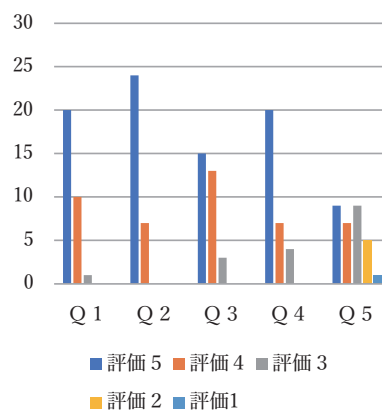
その一点目が、社会や関係機関との協働である。令和3年12月現在、いじめ・生徒指導研究センターと新潟県教育庁生徒指導課、村上市教育委員会とは業務に関する提携を強化しており、講師の派遣やいじめに関するアンケート分析等を協働しながら進めている。さらには、上越市小中学校PTA連絡協議会と共催でのBPプロジェクトシンポジウムを立ち上げることができた。

従来、学校教育や教員研修への貢献という形でBPプロジェクトは推進されてきたが、いじめ防止には家庭との連携、協働が欠かせない。どのようにBPプロジェクトに家庭を巻き込んでいくかと検討した結果、PTAと協働でシンポジウム、研修会を実施していこうと本年度からスタートしたのである。PTAの皆さんも非常に熱心に協力していただいた。プロジェクト終了後のアンケートでは、参加者約40名のうち31名から回答が得られた。



- Q1. いじめをめぐる諸問題の理解に役立ったか
- Q2. いじめに関する幅広い視野を得るのに役立ったか
- Q3. 現在の状況や課題を反映したものであったか
- Q4. 家庭や学校で今後取組むときに活用したいか
- Q5. 案内は適切だったか

表1 プロジェクトに対する評価

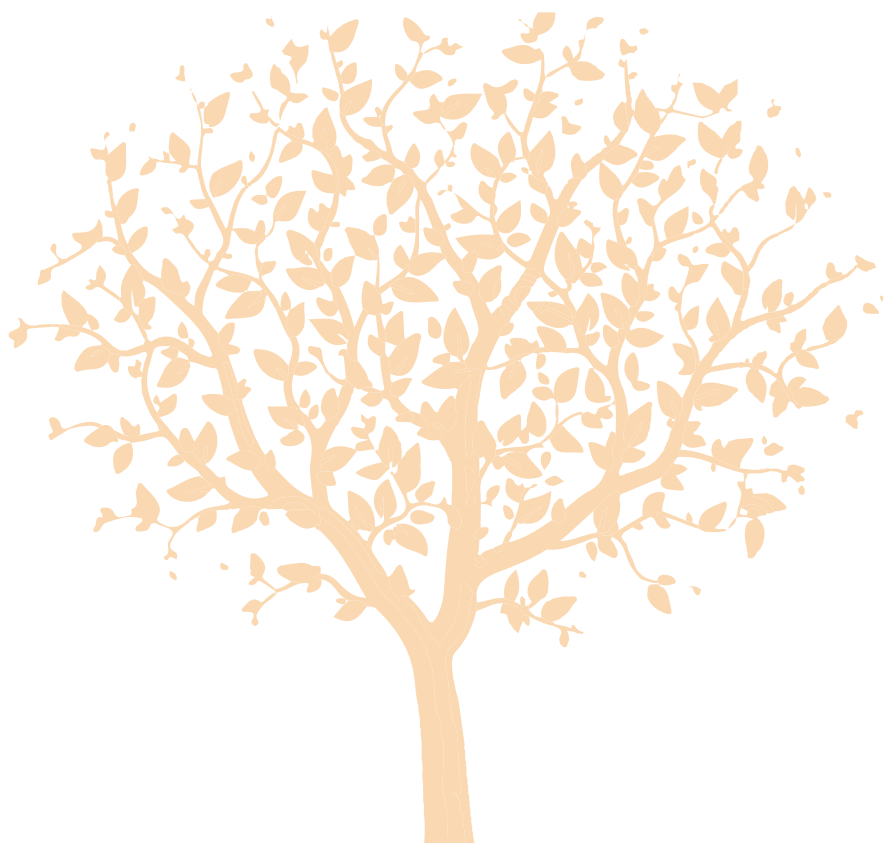
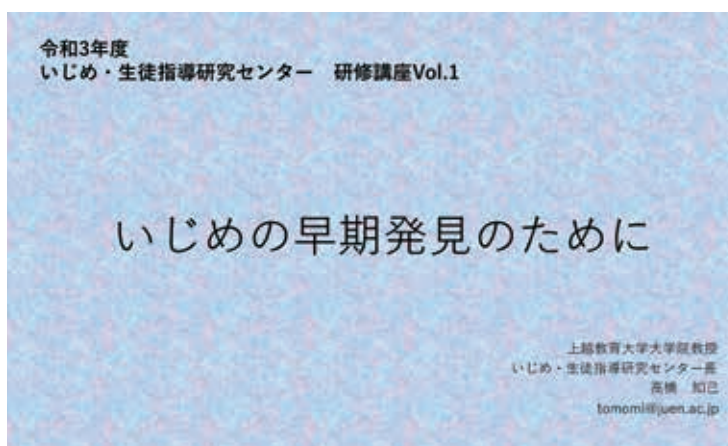


5問のアンケートに対して、「5 - とてもそう思う」から「1 - 全然そうは思わない」の回答を求めたところ、表1のような結果となった。この結果からは、おおむね好評だったということが言えよう。案内に関しては、各学校でのチラシ配布がぎりぎりだったこともあり、「もっと早くから周知してほしいかった」「もっと事前に会の立ち上げなどの説明をしてほしいかった」などの声が寄せられた。このアンケート結果については、今後の改善すべき点として、大学と上越市小中学校PTA連絡協議会とも共有することとした。今回はBPプロジェクトとの共催事業第1回目として立ち上げたが、企画されたPTA協議会の幹部のみなさんも参加された方々からも「ぜひ次回もこういう形で開催してほしい

い」という要望が出された。

二点目は、教員研修、カリキュラム開発、研究成果の公開、リーフレットの作成というBPプロジェクト当初に掲げた4つのサブテーマの集大成ともいえるべき「研修ビデオの制作」に取り組んだということである。令和3年中に1本30分程度の研修ビデオを2本作成し、年度内には公開する予定で作業を進めている。

本研修ビデオは、インターネットを使って配信し、オンデマンドで多くの人々が視聴できるように計画している。そのため教員研修や学生の学修にも活用できる内容を中心とし、時にはいじめ問題に関心を持つ市民の皆さんも視聴可能である。今後さらに研修講座のライブラリーを充実させていきたいと考えている。



今後の活動に向けて

いじめ・生徒指導研究センター長 高橋 知己

令和4年度からBPプロジェクトの発展的な事業として次の4点を重点的な活動目標として位置付け、取組んでいこうと計画している。

一つ目は、教育行政や学校と連携した研修への協力である。学校教育におけるいじめや生徒指導上の諸問題への解決に向けて、BPプロジェクトを主管するいじめ・生徒指導研究センターとしては積極的に取組んでいきたい。

二つ目は、PTAとの連携である。学校教育と家庭教育のより緊密で友好的な関係を築くことがいじめ問題にも大きな効果を発揮する。現状は両者の関係が必ずしも良好であるとも限らないケースもみられるのに加え、どのように関係性を構築すればよいのか、どのような計画にすればよいのかと戸惑いながら活動している地区もあるのではないだろうか。大学の機能を生かしながら地域社会と共に活動を進めて行こうと考えている。

三つ目は、オンライン研修ビデオの作成である。教員免許状更新制度が大きな転換点を迎えている今日にあって、次代の教員研修のあり方も大きく変わろうとしている。その際に一つの指針となるように、オンデマンドでも主体的に学べるような研修用のビデオを作成し、教員研修や初任者研修に活用できるようライブラリー化を推進していく予定である。

そして四つ目が、上述の活動を支える研究の推進である。BPプロジェクトは理論知と実践知の融合の上に活動がある。大学という研究機関で蓄積した理論的な知識を学校現場や社会へと往還することで次の実践が推進されるのではないだろうか。

今後はこれまでの知見や実践を踏まえてさらに発展的にBPプロジェクトを推進していく所存である。



事業紹介

いじめ防止支援機構（BP-CORE）による BP プロジェクトの推進といじめ防止のための支援活動

鳴門教育大学では、BPプロジェクトの推進組織として、平成27年にいじめ防止支援機構（BP-CORE）を新設し、「ネットいじめ」「LGBTといじめ」等のテーマに関する研究や教職員研修会・児童生徒保護者対象の講演会への講師派遣等いじめ防止に関する学校支援を展開しています。



- いじめ防止支援機構（BP-CORE）は生徒指導支援センター・予防教育科学センター・心身健康センター・発達臨床センターで構成。
- いじめ問題への支援と研究
- BP（いじめ防止支援）プロジェクト事業【4大学連携事業】
- 海外の研究者・研究機関等との連携によるいじめ問題への取り組み
- ◇いじめに関する多様な問題に適切な知見と支援を提供します。

支援事業

支援事業は、機構内の生徒指導支援センターが担っています。生徒指導支援センターを通して、教育委員会、学校サポート、ケース相談を行っています。

生徒指導支援センター
による支援事業の展開

教育委員会のいじめ防止対策支援

学校へのいじめ防止に関する教育支援

重大事態など個別ケース相談

子供の自己信頼心や社会性向上教育支援

活動内容報告



<https://www.naruto-u.ac.jp/center/seitoshidou/docs/2020061000014/files/houkoku2019.pdf>

教育・研修事業

いじめ問題に強い教員養成のための授業カリキュラム

いじめに立ち向かう教師を養成することは教育大学の使命であり、いじめ防止の取組を学校現場でリードする現職教員に対する人材育成機関としての責務を果たさなくてはならないと考えています。4大学が連携して取り組んでいるBPプロジェクトでの事業や研究成果による知見を踏まえ、学部・大学院でのいじめ防止のための授業カリキュラムを作成し授業を行っています。

学部 授業カリキュラム

いじめ防止論

● 授業内容とシラバス

- ・教員養成大学の使命として、いじめに立ち向かうことのできる教師の育成を図るため、いじめの理解を深め、いじめ防止のための取り組みを具体的にイメージすることができるようになることを目指している。
- ・いじめの加害・被害の実態、いじめに関する先行研究、いじめに係る法令等を解説するとともに、実際のいじめ事案や具体的場面での対応等学校現場で求められる教師の役割を身につけることを目指している。

授業回	内 容
第1回	いじめの社会問題化、いじめの定義・態様・構造について
第2回	いじめ防止対策推進法、いじめ防止基本方針について
第3回	児童生徒にとっての同世代人間関係の意義について
第4回	いじめの事例分析と基本的対応について
第5回	いじめ予防教育、いじめを生ませない学級集団づくりについて
第6回	ネット上のいじめ、差別といじめ、いじめ重大事態について
第7回	いじめに対する組織的対応、専門家・関係機関との連携について
第8回	いじめの関係修復に向けた取組

大学院 授業カリキュラム

いじめ不登校防止のための理論と実践防止論

● 授業内容とシラバス

- ・学校教育における重要課題であり、関連の強いいじめと不登校の問題を防ぐために、いじめ・不登校についての研究、調査、実践報告、第三者委員会報告などのアーカイブを通じた検討と、防止のための実践や方法についてディスカッションやワークなど演習を通して学ぶ。到達目標として、いじめ不登校問題に対して積極的に取り組む意志をもつこと、それを支える理論と実践方法のアイデアについての知見を獲得することを目指している。

授業回	内 容
第1回	いじめの状況と社会認識の動き、いじめ問題についての基本知識
第2回	いじめ防止対策推進法と基本方針、行政施策と学校における取組
第3回	いじめの構造の理解
第4回	多様性、人権、文化の影響からのいじめ問題の検討
第5回	第三者委員会の報告からのいじめ問題の検討
第6回	重大事態の理解と対応マニュアルからみたいじめ防止のための取組
第7回	いじめ防止の為の取り組み、組織的対応と構築
第8回	いじめに強くなる、パーソナリティの強化
第9回	関係修復への道のりと学校機能の回復、コミュニティづくり
第10回	不登校の現状と分析
第11回	解決志向アプローチの理論と実践
第12回	解決志向アプローチの理論と実践
第13回	いじめに対するグループアプローチによる支援
第14回	いじめに対するグループアプローチ支援
第15回	不登校対応の組織的取組とその展開

2015 年度 BP プロジェクト徳島大会



<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2015082000013/>

● 8月7日（金）、徳島市のあわぎんホールにおいて、BP（いじめ防止支援）プロジェクト徳島大会が開催されました。

大会では、鳴門教育大学 田中雄三学長による開会挨拶の後、徳島県教育委員会 佐野義行教育長、来賓として、文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長 坪田知広氏、徳島県知事 飯泉嘉門氏（代理：徳島県政策監 豊井泰雄氏）から挨拶を頂戴しました。



● 研修会は、阪根健二 鳴門教育大学教授による講演「ネットいじめや『ケータイ（スマホ）問題』に関する教師の知識の現状把握と指導の改善について」が行われました。参加者からは「具体的でわかりやすい内容は、すぐに学校での研修に生かし、思いを伝えたい。」等のコメントが多数寄せられました。



2016 年度 BP プロジェクト第 1 回徳島大会



<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2016083000057/>

● 8月20日（土）、徳島市のザ・グランドパレス徳島で、県内外から教育関係者・一般等 130 人が参加しました。BP プロジェクト徳島大会は、昨年度に引き続き全国 4 か所で開催される研修会の一つで、今回は連携 4 大学のほか、鳴門生徒指導学会との共催で開催しました。

● 山下鳴門教育大学長が「いじめに悲しむ人たちを何とかしたい、そのためには我々大人が本気で関わらなければいけないというのがこの BP プロジェクトの出発点。シンポジストの発表をもとに皆さんも一緒になっていじめ問題を考えてほしい」と本会を開催するにあたっていじめ防止に対する思いを訴えました。

● 研修会は、「いじめ研究の最先端～ピーター・K・スミス『学校といじめ』を読んで～」と題し、国際的に見た学校におけるいじめの特徴や、欧州のいじめ予防・対応策を日本の学校にどのように適用させるのかなどについてシンポジスト（葛西鳴門教育大学教授、金網甲子園大学准教授、池田鳴門教育大学講師）からの発表がありました。



2017年度BPプロジェクト第1回徳島大会



<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2017082400015/>



● 8月8日（火），鳴門教育大学講堂にて鳴門市教育委員会の教員研修，鳴教大教育・文化フォーラムとの共同で開催し，徳島県内の遠隔地の教職員向けにテレビ会議システムを用いてサテライト研修室（阿南市，美馬市）へ同時配信を行い，490人が参加しました。

● 阪根健二教授による講演「いじめ対応を考え直す時」では，いじめ対応に関して，今の課題は何であるか？について，オルフォードの実験やインビブルゴリラの心理学の実験等を用いて，デマや噂，人の錯覚，思い込みの怖さについて，いじめとの関連や，実際に起こったいじめ事案を取り上げ，学校が講じるべきであった対応措置について説明があり，いじめの事実確認には正確さ・迅速さが必要であり，親身になって支援することの必要性が示されました。



● 山下一夫学長による「子どもの心と大人の知恵」と題した講演では，「いじめ防止のための基本的な方針」のポイントについて，「ドラえもん」に登場するのび太とジャイアン，担任教師との関係を例に挙げ，自身の経験を交えながら，分かりやすく説明されました。特に重要な点として，1. いじめ対応を最優先にするという全教職員の共通認識，2. 子どもの心に寄り添い「あれ？気になる」と感じる教師のデリカシー，3. 気になることを教職員間で気軽に話し合える同僚，の3つが挙げられました。



BPプロジェクト第2回徳島大会



<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2017102400025/>

● 10月8日（日）に，徳島市のザ・グランドパレス徳島において，第2回徳島大会を開催し，県内外から教育関係者・一般等約100人が参加しました。

● 坪田知広文部科学省初等中等教育局児童生徒課長による「いじめを考える」，葛西真記子鳴門教育大学教授（生徒指導支援センター所長）による「性の多様性の理解と学校現場でのいじめの現状」と題した講演が行われました。



2018年度BPプロジェクト沖縄大会



<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2018091000012/>



●9月1日(土)に、沖縄県那覇市のパシフィックホテル沖縄において、平成30年度BPプロジェクト沖縄大会を鳴門教育大学の主催で開催し、県内外から教育関係者・一般等約80人が参加しました。

●阿形恒秀 鳴門教育大学教授(いじめ防止支援機構長)による「いじめ防止対策の要点」と題した講演では、「だれに責任があるか」ではなく「自分の責任で何ができるか」を問うことの重要性や、「禁止・管理の対策論」と「集団づくり・成長支援の教育論」の両方を大事にして「いじめをしない」から「豊かにつながる」へと展開していく必要性等が示されました。

●シンポジウム「沖縄におけるいじめ防止の取組について」では、大坪靖直 福岡教育大学教授がコーディネーターを務め、沖縄県でいじめ問題に取り組んでいる天願直光 沖縄県教育委員会義務教育課義務教育指導班班長、屋良淳 沖縄県教育委員会県立学校教育課高校教育改革班班長、大城勉 沖縄県警察本部生活安全部少年課少年サポートセンター所長、伊藤義徳 沖縄県臨床心理士会副会長の4名のシンポジストから各組織の取組報告の後、会場との質疑応答が行われました。参加者からは、「沖縄の現状と取組を知る貴重な機会となった」「いじめを見逃さないという姿勢を徹底していきたい」といった感想が寄せられていました。



BPプロジェクト徳島大会



<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2018110100013/>

●10月27日(土)に、鳴門教育大学において、平成30年度BPプロジェクト徳島大会を開催し、県内外から教育関係者・一般等約60人が参加しました。



●池田誠喜 鳴門教育大学准教授による「しなやかな心の育成といじめ防止」と題した講演で、人がストレスをどう感じるかのメカニズムやその対応策と「レジリエンス(回復力・弾性)についての考え方やその伸ばし方」などが示されました。続いて、「いじめ防止のための教育活動の紹介」として、岡田康孝 洲本市立安乎(あいが)小学校教諭、齊藤想能美 鳴門教育大学附属小学校教諭の2名の現職教員による道徳教育の授業実践例が報告されました。参加者からは、「具体的な授業実践例が示され、大変参考になった」、「いじめを防止するための普段の実践や授業で思考することの重要性をあらためて考える機会となった」といった感想が寄せられ、非常に有意義な研修会となりました。



2019年度BPプロジェクト第1回徳島大会



<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2019082100018/>

● 8月9日（金），鳴門教育大学においてBPプロジェクト第1回徳島大会を開催し，県内外から教育関係者・PTA・一般等約90人が参加しました。

● 本大会は，阿形恒秀 鳴門教育大学教授（いじめ防止支援機構長）がコーディネーターを務め，「いじめ防止対策推進法のこれまでとこれから」をテーマとし，新井肇 関西外国語大学教授，高橋知己 上越教育大学教授により，いじめの防止等のための基本的な方針の策定や第三者委員会の委員長を務めた経験から，いじめ防止対策推進法が制定された成果と今後の課題について話題提供が行われました。続いて，佐藤秀行 公益社団法人日本PTA全国協議会長及び安西政和 徳島県教育委員会人権教育課いじめ問題等対策室長による指定討論が行われました。公益社団法人日本PTA全国協議会で作成した『今すぐ！家庭でできるいじめ対策ハンドブック』の紹介や徳島県のいじめ問題や課題，また徳島県で実施しているいじめ防止対策が紹介されました。



BPプロジェクト第2回徳島大会



<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2019121000019/>

● 12月7日（土），鳴門教育大学においてBPプロジェクト令和元年度第2回徳島大会を開催し，県内外から教育関係者・本学学生・一般等約70人が参加しました。

● 吉井健治教授から「いじめによる不登校-つながりの危機と回復-」と題して講演が行われ，いじめの重大事態としての「いじめによる不登校」に焦点を当て，いじめを受けた児童生徒及びその保護者への貢献を中心において，臨床心理学的視点からの理解と支援について説明されました。続いて，生徒指導支援センターの竹口佳昭研究員から，本学の附属学校園のいじめ防止対策について報告が行われました。

附属学校園のいじめ防止対策ワーキンググループやいじめ問題等ケース会議での活動内容について報告いたしました。



2020年度BPプロジェクト徳島大会



<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2020112000017/>

● 11月14日（土），鳴門教育大学においてBPプロジェクト令和2年度徳島大会を開催し，県内外及びオンライン配信から教育関係者・本学学生・一般等約70人の参加がありました。

● 本大会は，新型コロナウイルス感染症拡大下において，「コロナといじめ」をテーマに実施しました。国分寺市立第一中学校 後藤正彦校長から「コロナ対応と生徒サポート」と題して，教育現場でのコロナウイルス感染予防対策といじめの現状について報告があり，徳島県教育委員会人権教育課いじめ問題等対策室 安藝恭子班長から「コロナ下における徳島県の学校状況」について助言をいただきました。報告及び助言を受けて，鳴門教育大学いじめ防止支援機構長 阿形恒秀教授から「コロナといじめ」について総括講話が行われました。



2021年度BPプロジェクト徳島大会

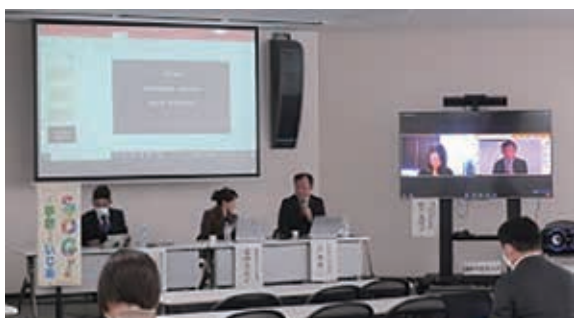


<https://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2021121300013/>

● 12月4日（土），鳴門教育大学において，プレイベントとして「SOGIと学校でのいじめ」と題したオンラインディスカッションセミナー報告会や，教員研修会（共催：四国地域教職アライアンス鳴門教育大学センター）を実施し，会場参加及びオンライン配信により教育関係者・本学学生・一般等約150人（うち80人がオンライン）の参加がありました。

● いじめ防止活動の実践報告として，鳴門教育大学附属小学校の横瀬美穂教諭，同附属中学校の廣田愛実里教諭，東大和市立第一中学校の立川裕校長，藍住町立藍住中学校の西山伸二校長から，学校現場でのいじめ防止のための組織的取組事例の紹介がありました。

● 鳴門教育大学 阪根健二特命教授から「生徒指導のリスクマネジメント」，阿形恒秀特命教授から「BPプロジェクトを通して見てきたこと～いじめの本質」について講演があり，参加者からは非常に有意義な研修会となったという声が寄せられました。



他の様々な取組

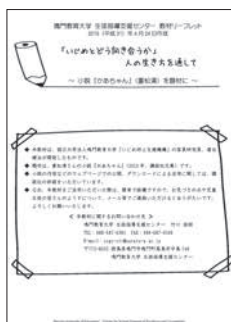
● 『SOGI といじめ問題を考える』 オンラインディスカッションセミナー



いじめ防止支援機構 (BP-CORE) で作成した資料 web コンテンツ



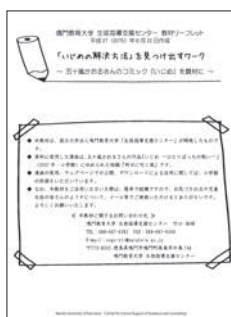
<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/docs/2017112500012/files/ijimeyouten.pdf>



<https://www.naruto-u.ac.jp/center/seitoshidou/docs/2019070400045/files/kaatyan.pdf>



<https://www.naruto-u.ac.jp/center/seitoshidou/docs/2019071100012/files/aitori.pdf>



<https://www.naruto-u.ac.jp/center/seitoshidou/docs/2015062200051/files/leaflet001.pdf>



<https://www.naruto-u.ac.jp/center/seitoshidou/docs/2018072600019/files/leaflet002.pdf>

今後の活動に向けて

BPプロジェクトは、いじめの第四の波の中、いじめ防止のための社会総がかりの取組が求められている状況において、学校教育における教員養成と人材育成を担う教育大学としての具体的な活動として7年間取り組んできた。今後の活動として、4大学との連携・協力を維持しながらこれまでの事業内容を継続するとともに、いじめ防止のための組織的対応の研究、加害者側の指導支援としての修復的実践についての実践的研究を推し図り、教育現場、教員養成、人材育成に寄与していきたい。

事業紹介

福岡教育大学による BP プロジェクト事業

いじめ根絶をめざすアクションプログラム

福岡教育大学では、平成 26 年度より、「いじめ根絶をめざすアクションプログラム」を策定し、いじめ予防に資する一連の取組を行っている。

このアクションプログラムでは、大学が有するリソース、宗像・福岡・小倉・久留米の各地区に置かれた附属学校を活用し、福岡県教育委員会及び福岡県市町村教育委員会連絡協議会と締結した連携を生かすとともに、他の 3 教育大学との連携を通して、いじめ根絶を目指すものである。

平成29年度 いじめ根絶をめざすアクションプログラム

福岡教育大学
発表者：大坪靖直



福岡教育大学

2017/12/11

取組 1 大学と附属学校、県内の各教育委員会が連携した取組

- ・大学が中心となって公立学校でのいじめ防止対策等の良い事例、先進事例を収集し、附属学校での実践等に生かすとともに、今後の活用方策を研究する。
- ・大学は、現職教員に対する研修プログラムを開発し、研修を実施するとともに、卒業生（教員就職者）に対する応援・指導体制を確立する。

取組 2 附属学校における予防教育、よさと可能性の発見の取組

- ・現行の教科・領域等では十分に取扱いできていないいじめ予防に資する一連の具体的なプログラムを 30 程度開発（既存のもの改訂含む）して、試行し、改善を加え、公立学校で使えるプログラムとする。
- ・なお、実施に当たっては、附属福岡が中心となり、附属小倉・久留米は協力及び試行する。

取組 3 解決事例や成果を大学のホームページで社会に発信する取組

- ・よい取組や首尾よく解決した事例、実践研究の成果の公表について、個人情報保護の観点から十分に吟味し、より一般化された形で大学のホームページにより公表する。これにより、いじめの抑止力になることが期待される。（準備中）
- ・大学からの一方的な発信とならないように、それらに対するパブリックコメントを募り、それらも合わせて掲載することにより、いじめ根絶の世論形成につなげていく。

取組 4 教員になる若い世代や保護者への教育や啓発の取組

- ・本取組の成果を踏まえて教職科目の中に組み入れ、教員養成における現代的課題への対応力を向上させる。
- ・公立学校保護者会における講演や出前講座などにより啓発活動を行う。

取組 5 他の教育大学との連携した取組

- ・本学のみならず、他の教育大学（鳴門教育大学、宮城教育大学、上越教育大学）と連携して、各地域の実情等を考慮した取組や成果について、情報共有を図るとともに、相互に成果を活用することなどを通して、共同していじめをなくす日本の教育の実現に資する研究を展開する。

研修事業

連携4大学では、いじめ防止に向けて、教員や学校の生徒指導力向上のための各種支援事業、教育研究事業、研修事業等を実施している。中でも、研修事業と情報発信については各大学が行う共通の事業として位置づけられており、研修事業では、研修会として全国4カ所で各大学の特色を活かした取組の発表等を実施し、多くの教育関係者の参加を得た。

福岡教育大学では、平成27年度から次の研修事業等を実施した。なお令和元年度と2年度についてはコロナ禍のため開催ができなかったが、令和3年度はHP上での資料提示等を実施した。

① 平成27年度第2回福岡県指導主事等研修会とのタイアップ事業

日時：平成27年9月7日（月）13時～14時

場所：福岡県教育センター

平成27年9月7日（月）13時より福岡県教育センターで実施された、平成27年度第2回福岡県指導主事等研修会とタイアップし、BPプロジェクト及び福岡教育大学いじめ根絶をめざすアクションプログラムの説明を行いました。

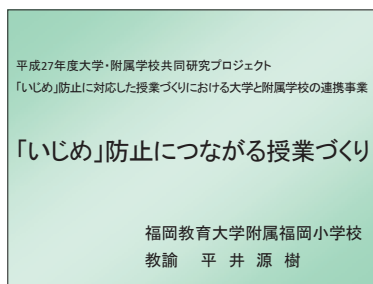
当日は、福岡教育大学大坪靖直副学長から「BPプロジェクト及び福岡教育大学の取組」についての説明と、鳴門教育大学特任教授の森田洋司先生から「いじめ防止の現状と課題」についての講演を行い、福岡県内の指導主事等約300名の先生方が熱心に聞いていました。

② 平成27年度福岡教育大学いじめ防止研修会

平成28年2月28日（日）、福岡教育大学において、平成27年度福岡教育大学いじめ防止研修会を開催しました。（参加者数：81名）

本研修会では、大坪靖直副学長より、「いじめ根絶をめざすアクションプログラム」における取組状況について、附属福岡小学校の平井源樹教諭より、現行の教科で扱ういじめ予防に資する一連の授業案（いじめ防止につながる授業づくり）について報告がありました。

引き続き、当該授業案の有効性の検証、改善を加え、公立学校で使えるプログラムの試行に協力いただいた福岡市立西高宮小学校の宇都宮純一教諭、宗像市立自由が丘小学校の青野慎一教頭、行政の立場から福岡県教育委員会高校教育課の青木圭子主任指導主事、義務教育課の奥浩幸主任指導主事を交え、「いじめ防止を意図した各教科等の授業づくりについて」ディスカッションが行われました。フロアからも、「大変興味深い取組だ」、「ブラッシュアップし使えるものにしてほしい、期待している」等の意見があり、いじめ問題を真に解決しうる授業づくりについての提案ができ、大変有意義な研修会となりました。



③ 2016 年度教職大学院フォローアップ研修会

平成 28 年 7 月 30 日（土）に、福岡市内のホテルにおいて 2016 年度教職大学院フォローアップ研修会を開催した。

本研修会では、本学教職大学院生、修了者及び教員など 104 名の参加により、教職大学院修了者等のフォローアップとして、教職大学院村田育也教授より「ネットいじめにどう向き合うか？」と題し、多様で複雑なネットいじめについての講演を行った。

④ 第 11 回宗像地区教育関係者合同研修会

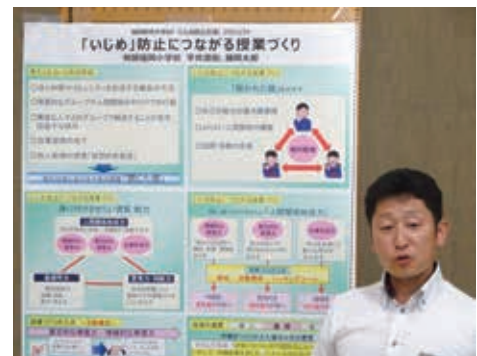
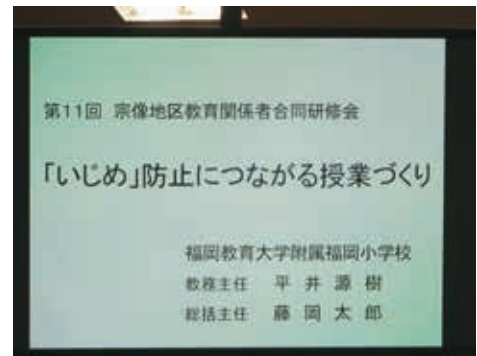
平成 28 年 8 月 10 日（水）に、本学アカデミックホールにて「第 11 回宗像地区教育関係者合同研修会」を開催しました。

「福岡教育大学と宗像地区の学校との連携について」を全体テーマとし、猛暑の中、宗像市・福津市教育委員会および学校関係者、本学関係者を合わせて約 190 名の参加があった。

開会行事では、櫻井学長から「宗像地区の教育振興を図るという本研修会の目的に立ち返り、これまでの成果を踏まえ、望ましい連携の在り方やそのための課題を考えていきたい」との挨拶があった。

第一部では、「いじめ・不登校の未然防止への取組について」と題して、福津市における Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）等を活用した取組状況、そして教員養成 4 大学（宮城教育大学、上越教育大学、鳴門教育大学、福岡教育大学）が協働で実施している「BP（いじめ防止）プロジェクト」より、附属福岡小学校での「いじめ」防止につながる授業づくりについて、実践発表があった。

第二部では、新たな試みとして、「大学研究シーズと学校のニーズのマッチング・ワークショップ」と題してのポスターセッションを行った。福岡教育大学 BP（いじめ防止）プロジェクト、体験実習・教育実習、CS（コミュニティスクール）支援、防災教育、そして Q-U の 5 種類のポスターを会場内に設置し、出席者は自身の興味があるブースを訪ね、担当教員の説明を受けての質疑応答が交わされる様子が、会場内で多く見受けられた。



⑤ 平成 28 年度福岡教育大学いじめ防止研修会

平成 29 年 3 月 4 日（土）、福岡教育大学において平成 28 年度福岡教育大学いじめ防止研修会を開催した。（参加者数：100 名）

本研修会では、大坪靖直教授より、「いじめ根絶をめざすアクションプログラム」における取組状況について、附属福岡小学校の平井源樹教諭、二串英一教諭、藤岡太郎教諭より、現行の教科で扱ういじめ予防に資する一連の授業案（「いじめ」防止につながる授業づくり（全体、体育、算数、社会））について事業報告があった。

質疑応答では、フロアからも、「独自の観点による大変興味深い取組だ」、「いじめ防止と学びを



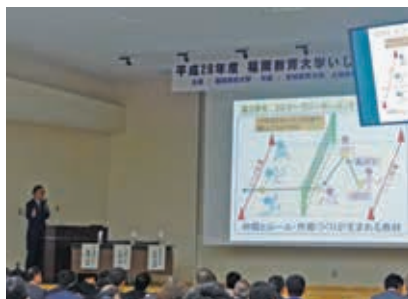
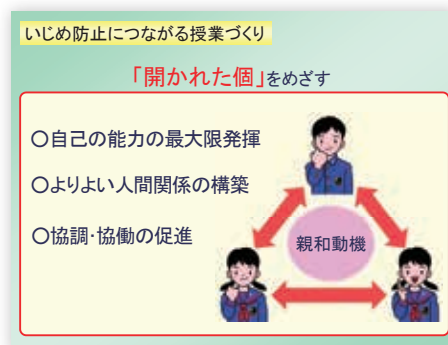
共有した実践的な教材である」等の意見があった。

講評では、教育行政の立場より、福岡県教育庁教育振興部義務教育課の金子尚文主幹指導主事からいじめ防止の推進と題し、福岡県及び全国のいじめ問題の状況、いじめ問題への対応についての報告及び附属福岡小学校での実践についての意見をいただいた。

附属福岡小学校での実践については、全教科で特色のある取組を行っていることに高い評価をいただき、また、事業報告のあったそれぞれ教科についての課題を指摘していただいた。

最後にいじめ問題への対応については、いじめ未然防止の推進として児童生徒の自己指導能力を育成する及びいじめの早期発見・早期対応が求められるとの指摘をいただいた。

本学の取組の現状報告を行うことにより、いじめ問題を真に解決しうる授業づくりについての提案ができ、大変有意義な研修会となりました。



⑥ 平成 29 年度福岡教育大学いじめ防止研修会

平成 30 年 3 月 3 日（土）、福岡教育大学アカデミックホールにおいて平成 29 年度福岡教育大学いじめ防止研修会を開催しました。（参加者数：138 名）

本研修会では、大坪靖直教授より、「いじめ根絶をめざすアクションプログラム」における取組状況について、附属福岡小学校の齋藤淳教諭より、現行の教科で扱ういじめ予防に資する一連の授業案、「いじめを生まない授業づくり」について事業報告を行いました。

大坪教授と附属福岡小学校の平井教頭、二串教諭、齋藤教諭のディスカッションでは、「いじめを生まない授業づくり～このような授業を行うと、なぜいじめ防止に寄与できるのか～」について議論がなされました。

実践研究発表では、本学教職大学院生徒指導・教育相談リーダーコース 2 年（北九州市立菅生中学校教諭）の木村敏久教諭より、「中学校におけるいじめ防止のための心理教育プログラム実践～いじめを深刻化させないための取組～」について実践研究発表を行いました。

最後に、鳴門教育大学いじめ防止支援機構長の阿形恒秀教授より、「いじめ防止対策の要点～いじめ認知の難しさと大切さ～」について講演を行いました。

⑦ 平成 30 年度福岡教育大学いじめ防止研修会

平成 31 年 3 月 2 日（土）、福岡教育大学アカデミックホールにおいて平成 30 年度福岡教育大学いじめ防止研修会を開催しました。（参加者数：138 名）

本研修会では、日本生徒指導学会会長・鳴門教育大学特任教授の森田洋司先生より、「いじめ防止対策の在り方を改めて考える～総務省の勧告を受けて～」について、大変貴重なご講演をいただきました。引き続き大坪靖直教授より、「いじめ根絶を目指すアクションプログラム」における本

学の出組についての事業報告、附属福岡中学校の姫島和久教諭、西村紀彦教諭、久永美穂教諭より、現行の教科で扱ういじめ予防に資する一連の授業案、「いじめを生まない授業づくり」について実践発表を行いました。

最後に大坪教授と附属福岡中学校の姫島教諭、西村教諭、久永教諭の質疑応答では、「いじめを生まない授業づくりについて」フロアを巻き込んでの議論がなされました。この研修会では、BPプロジェクト関係者、福岡県内、福岡県外教育関係者、他大学学生、本学教職員、本学院生及び本学学生など138名が参加し、大変有意義な研修会となりました。



⑧ 令和3年度福岡教育大学いじめ防止研修会

令和3年度もコロナ禍のため対面での開催を回避し、オンラインでの資料提示を行いました。感染症対策を取りながら、収録のために先生方にお越し頂きました。その後の編集作業についても福岡教育大学の教材開発スタジオで行いました。福岡教育大学HPに掲載しております内容については以下のとおりです。

まず第1部では「いじめ防止のための早期発見のありよう」として、上越教育大学大学院教授いじめ・生徒指導研究センター長の高橋知己先生に基調講演をお願いいたしました。引き続き第2部では、「生徒主体の個と個をつなぐ学級での取り組み～毎日の一分間交流を通して級友との繋がりを深めよう～」と題しまして福岡教育大学附属福岡中学校の重松太郎教諭、加藤晋也教諭より事例発表がございました。第3部の意見交換会では本学大坪副学長の司会により進行し、第1部で講演くださいました高橋教授、第2部で事例発表を行いました重松教諭、加藤教諭に加え、鳴門教育大学の阿形恒秀特命教授にも加わっていただき活発な意見交換を行っていただきました。

教育・研修事業

福岡教育大学教職大学院生による実践研究発表

① 平成29年度第2回FUE学校適応研究会

平成29年7月1日(土)、福岡教育大学教職大学院において、平成29年度第2回FUE学校適応研究会を開催しました(参加者数:29名)。

本研究会は、子どもの学校適応を促進するための学校心理学にもとづくアプローチを教育実践の場で推進する為に、自主研修により現職教員等が互いの専門的力を高めることを目的としています。その研修において、福岡教育大学教職大学院生徒指導・教育相談リーダーコース2年の木村敏久院生(北九州市立菅生中学校教諭)による「中学校ブロックにおけるいじめ・不登校問題解消に向けた『北九州子どもつながりプログラム』の効果的な実践～いじめ問題解消に向けた具体的な取組について～」というテーマで報告と検討会を行いました。

内容は、中学校ブロックにおける規範意識の土台となる社会的能力向上に向けた実践の報告を行いました。その後、中学校での授業の紹介と参加者による授業の体験をしてもらいました。加えて、小学校から中学校の9年間を見通した学習内容にするため、小学校におけるいじめ問題解消に向けて作成した学習内容を提案し、その内容(授業の展開や発達段階など)について参加者と検討しま

した。参加者からは、「小学校段階からのいじめについての実践はとても大切なものになる」「具体的な行動をキーワードを活用してロールプレイすることで、どのように行動すればいいのか理解しやすく、わかりやすい」といった意見をいただきました。一方で、学習内容に関して「生徒の実態に合ったいじめの設定の難しさ」「現代ならではの、パソコンやスマートフォンといった発見しにくいいじめ場面における内容が必要」「実際にいじめが起きたときに、本当に行動を起こすことができるのだろうか」といった現場におられる小中学校の先生方との意見交流ができ、学習内容の見直しを進めていく上でも大変有意義な研修会となりました。

研修会後の2学期に小学校中学年（4年）・小学校高学年（6年）・中学校（2年）において実施し、その効果を検証していくことになりました。

② 日本学校心理学会 第19回つくば大会

平成29年9月16日（土）に、筑波大学での、日本学校心理学会第19回つくば大会において、福岡教育大学教職大学院生徒指導・教育相談リーダーコース2年の木村敏久院生（北九州市立菅生中学校教諭）による「中学生がいじめ事態で被害者・加害者へ介入する力を獲得する学習の効果」というテーマでポスター発表を行いました。

内容は、中学2年生の具体的ないじめ事態において加害者や被害者へ介入することができるように、具体的ないじめの場面を設定し、アサーションの要素を取り入れたロールプレイ学習によるいじめ問題解消に向けた効果の検討を目的に行ったものです。その結果、いじめを解決しようと思うようになったり、いじめ加害傾向を低下させたりするようになりました。学会参加者より、「具体的な対応を学習させるようなプログラムはあまり見られないので、興味深かった」「いじめはどこでも起こり得ることなので、子どもたちによる早期の対応への良い学習となる」と意見や感想をいただき、大変有意義な発表となりました。

③ 平成29年度

児童生徒の社会的能力育成に関するコーディネーター的教員研修会

平成29年10月13日（金）、福岡教育大学教職大学院棟において、平成29年度児童生徒の社会的能力育成に関するコーディネーター的教員研修会を開催致しました（参加者数：23名）。

本研修会は、児童生徒の社会的能力を計画的・組織的に育成することによって学校適応を促進し、学力向上や問題行動の減少を図ろうとしている学校において、取組みの導入・推進の中心となるコーディネーター的教員が「社会性と情動の学習」（SEL-8S）に取り組む手順や計画立案等に関する具体的方法を習得し、さらに向上させることを目的にしています。その中で、福岡教育大学教職大学院生徒指導・教育相談リーダーコース2年の木村敏久院生（北九州市立菅生中学校教諭）による「小中学校におけるいじめ問題解消に向けた学習内容の作成と授業実践について」というテーマで実践の報告を行いました。

内容は、いじめ問題に特化した学習内容を生徒に試行した効果に関するものと小中学校9年間を見通して作成した学習内容の紹介でした。学習の効果については、いじめの解決方法を具体的に考えることはできましたが、実際にいじめ事態が発生したときにはどのように行動すれば良いのか分からないため、いじめ問題を解決することができないと思うようになってしまいました。そこで、傍観者にならないようにするために、加害者や被害者にどのような関わり合いをするのかをポイントを活用したロールプレイを実施したところ、加害者を注意したり、被害者をなぐさめたりすることができると思うようになりました。一方で、「いじめは絶対にだめだ」「いじめられる側に原因があってもいじめてはいけない」と思うようになりましたが、一定時間を経過するとその思いは減少してしまい、定着させることが難しいということが分かりました。その原因として、社会的能

力の高さに着目したところ、社会的能力が低い生徒は高い生徒に比べて学習内容が定着しないということがわかりました。いじめ問題解消に向けた学習だけではなく、基本となる社会的能力育成が必要であるということが明らかになりました。

④ 平成 29 年度

北九州市立菅生中学校区人権教育研究推進協議会第 2 回合同研修会

平成 29 年 11 月 29 日（水）、北九州市立長尾小学校において、平成 29 年度菅生中学校区人権教育研究推進協議会第 2 回合同研修会を開催しました。（参加者：102 名）

本研修では、中学校区の教員が一堂に会し、長尾小学校における「北九州子どもつながりプログラム」公開授業を行い、その後全職員による合同研修会で、よりよい実践に向けての理解を深め交流することを目的としています。


合同研修会において、福岡教育大学教職大学院生徒指導・教育相談リーダーコース 2 年の木村敏久院生（北九州市立菅生中学校教諭）による「菅生中学校区北九州子どもつながりプログラムの実践について」というテーマで、プログラムの進捗状況や各学校の実践の紹介について、いじめ問題解消の土台となる社会的能力向上に向けた実践についての研修会を行いました。その中で、中学校におけるいじめ問題解消に向けた具体的な授業内容やその効果について報告し、いじめ問題に特化した授業や小学校段階からの指導の必要性について研修を行いました。

参加者からは、「いじめ問題解消に特化した授業の必要性を感じた」「いじめの場面を具体的に設定し、本当にいじめ事態に陥ったときに、正しい行動を取ることができるように、自分の行動を決め実際にロールプレイを行うことの必要性を感じた」「授業をしても効果が減少してしまうことを考えても、社会的能力の育成を目的とした継続した授業や取組が必要であるということが分かった」といったように、今回の取組や効果について好意的な意見が多く上がり、大変有意義な研修会となりました。

実践研究発表

平成29年度
福岡教育大学いじめ防止研修会

**中学校におけるいじめ防止のための
心理教育プログラム実践
—いじめを深刻化させないための取組—**



福岡教育大学大学院長期派遣研修員
生徒指導・教育相談リーダーコース
木村 敏久（北九州市立菅生中学校）

©2018 Kimura & Koizumi

今後の活動に向けて

4 大学連携による BP プログラムは本年度をもって一応の終了を迎えるが、本事業を通して得ることができた研究知見やネットワークを活用して、いじめ防止に寄与する取り組みは継続する予定である。具体的には、本学が取り組んできた「いじめ根絶をめざすアクションプログラム」の中で、大学と県内の各教育委員会が連携した取り組みや、教員になる若い世代や保護者への教育や啓発の取り組みは継続していきたい。

BP プログラムで得たいじめ防止の方策には、いじめはいかなる条件下でも許されるものではないという規範意識の育成のほか、早期発見のためのアンケートや相談体制の工夫、いじめ防止の特別な取り組みばかりではなくいじめ防止の効果を産みだす日常の学級経営や授業設計の工夫など、多くの視点が含まれている。これらの視点を考慮しながら、学校を単位とした持続可能な組織的な取り組みを続けることを提案していきたいと考えている。

福岡教育大学 BP プロジェクト関連リンク

福岡教育大学附属福岡小学校 WEB ページ紹介

<https://fukuokaes.fukuoka-edu.ac.jp/>



福岡教育大学附属福岡中学校 WEB ページ紹介

<https://fukuokajs.fukuoka-edu.ac.jp/>



福岡教育大学 BP プロジェクト 専用 WEB ページ紹介

<https://bp.fukuoka-edu.ac.jp/>



平成 27 年度

BP (いじめ防止支援) プロジェクトメンバー

Bb (いじめ防止支援) プロジェクトメンバー

宮城教育大学

関口 博久 SEKIGUCHI Hirohisa

学務担当副学長
大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授 特別支援教育講座
専門: 児童精神医学(不登校・児童虐待等)



佐藤 静 SATO Shizuka

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
附属特別支援教育総合研究センター
専門: 臨床心理学(教育相談、心理支援)



植木田 潤 UEKIDA Jun

特別支援教育講座・准教授
附属特別支援教育総合研究センター
専門: 発達障害学(二次障害の理解と対応、
教職員への支援)



久保 順也 KUBO Junya

学校教育講座教育心理学コース・准教授
専門: 臨床心理学(生徒指導、カウンセリング)
学外の役職: 仙台市生徒指導問題等懇談会委員長 他



越中 康治 ETCHU Koji

学校教育講座教育心理学コース・准教授
宮城教育大学幼小連携推進研究室
専門: 発達心理学(社会性・道徳性の発達)



問合せ先

宮城教育大学 研究・連携推進課 連携推進係
〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149
TEL: 022-214-3641・3706 FAX: 022-214-3342
Mail: renkei@adm.miyakyo-u.ac.jp

上越教育大学

林 泰成 HAYASHI Yasunari

副学長
教育研究評議会評議員、大学院学校教育研究科・教授
専門: 道徳教育、こころの教育



安藤 知子 ANDO Tomoko

大学院学校教育研究科・教授
学校教育実践研究センター・教授
専門: 学校経営学(学校組織論、学年・学級経営論)



稲垣 応顕 INAGAKI Masaaki

大学院学校教育研究科・教授
専門: 臨床教育学(生徒指導、教育カウンセリング)



高橋 知己 TAKAHASHI Tomomi

大学院学校教育研究科・准教授
専門: 臨床教育学(特別活動論、学校心理学)



山田 智之 YAMADA Tomoyuki

大学院学校教育研究科・准教授
専門: 臨床教育学(生徒指導、キャリア教育学)



問合せ先

上越教育大学教育支援課 学校連携チーム
〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地
TEL: 025-521-3274 FAX: 025-521-3280
Mail: gpsien@juen.ac.jp
Webページ: <http://www.juen.ac.jp/project/bpjuen/>

鳴門教育大学

山下 一夫 YAMASHITA Kazuo

理事・副学長
いじめ防止支援機構長
専門: 臨床心理学、生徒指導論



森田 洋司 MORITA Yoji

特任教授
日本生徒指導学会会長
専門: 社会学
(教育社会学、犯罪社会学、社会病理学、生徒指導論)



阿形 恒秀 AGATA Tsunehide

大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
教員養成特別コース・教授
生徒指導支援センター所長
専門: 臨床教育学(生徒指導、教育相談、人権教育)



粟飯原 良造 AIHARA Ryohzoh

大学院学校教育研究科人間教育専攻
臨床心理士養成コース・教授
専門: 臨床心理学(小児心身医学、スクールカウンセリング)



今田 雄三 IMADA Yuzo

大学院学校教育研究科人間教育専攻
臨床心理士養成コース・教授
専門: 臨床心理学、精神医学、学校精神保健学



久我 直人 KUGA Naoto

大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
教職実践力高度化コース・教授
専門: 学校経営実践論・学級経営実践論



小坂 浩嗣 KOSAKA Hirotsugu

大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
教職実践力高度化コース・教授
専門: 教育臨床心理学



阪根 健二 SAKANE Kenji

大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
教職実践力高度化コース・教授
専門: 学校教育学(生徒指導、学校危機管理、新聞活用教育)



吉井 健治 YOSHII Kenji

大学院学校教育研究科人間教育専攻
臨床心理士養成コース・教授
専門: 臨床心理学



末内 佳代 SUEUCHI Kayo

大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
教職実践力高度化コース・准教授
専門: 学校臨床心理学



池田 誠喜 IKEDA Seiki

大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
教職実践力高度化コース・講師
専門: 生徒指導、学校教育相談



竹口 佳昭 TAKEGUCHI Yoshiaki

生徒指導支援センター・研究員
専門: 学校臨床心理学



問合せ先

鳴門教育大学 いじめ防止支援機構(BP-CORE)

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地

TEL: 088-687-6173 FAX: 088-687-6108

Mail: satellitebp@naruto-u.ac.jp

Webページ:

<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/bpcore.html>

福岡教育大学

檜崎 洋二郎 NARASAKI Yojiro

理事・副学長(国際交流・社会連携担当)
国際交流・留学生支援推進本部長、英語習得院長
専門: 地方行政事務



大坪 靖直 OHTSUBO Yasunao

副学長(学術情報・ICT担当)
学術情報センター長
専門: (教育)教育社会心理学、(研究)社会心理学



問合せ先

福岡教育大学連携推進課

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1番1号

TEL: 0940-35-1004 FAX: 0940-35-1700

Mail: rensuich@fukuoka-edu.ac.jp

Webページ: <https://bp.fukuoka-edu.ac.jp/>

平成 28 年度

BP (いじめ防止支援) プロジェクトメンバー

Bb (いじめ防止支援) プロジェクトメンバー

宮城教育大学

熊野 充利 KUMANO Mitsutoshi
連携担当理事・副学長
専門: 学校経営、地方教育行政



関口 博久 SEKIGUCHI Hirohisa
保健管理センター所長
大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授 特別支援教育講座
専門: 児童精神医学(不登校・児童虐待等)



佐藤 静 SATO Shizuka
大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
附属特別支援教育総合研究センター
専門: 臨床心理学(教育相談、心理支援)



植木田 潤 UEKIDA Jun
特別支援教育講座・准教授
附属特別支援教育総合研究センター
専門: 発達障害学(二次障害の理解と対応、
教職員への支援)



久保 順也 KUBO Junya
学校教育講座教育心理学コース・准教授
専門: 臨床心理学(生徒指導、カウンセリング)
学外の役職: 仙台市生徒指導問題等懇談会委員長 他



越中 康治 ETCHU Koji
学校教育講座教育心理学コース・准教授
宮城教育大学幼小連携推進研究室
専門: 発達心理学(社会性・道徳性の発達)



問合せ先

宮城教育大学 学長室

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149
TEL: 022-214-3675 FAX: 022-214-3309
Mail: gakuchohitsu@adm.miyakyo-u.ac.jp

上越教育大学

林 泰成 HAYASHI Yasunari
副学長
教育研究評議会評議員、大学院学校教育研究科・教授
専門: 道德教育、こころの教育



安藤 知子 ANDO Tomoko
大学院学校教育研究科・教授
学校教育実践研究センター・教授
専門: 学校経営学(学校組織論、学年・学級経営論)



稲垣 応顕 INAGAKI Masaaki
大学院学校教育研究科・教授
専門: 臨床教育学(生徒指導、教育カウンセリング)



高橋 知己 TAKAHASHI Tomomi
大学院学校教育研究科・准教授
専門: 臨床教育学(特別活動論、学校心理学)



山田 智之 YAMADA Tomoyuki
大学院学校教育研究科・准教授
専門: 臨床教育学(生徒指導、キャリア教育学)



清水 雅之 SHIMIZU Masayuki
学校教育実践研究センター・准教授
専門: 情報教育、小学校(生活科・総合)教育



問合せ先

上越教育大学教育支援課 学校連携チーム

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地
TEL: 025-521-3279 FAX: 025-521-3280
Mail: gakkoren@juen.ac.jp
Webページ: <http://www.juen.ac.jp/project/bpjuen/>

鳴門教育大学

佐古 秀一 SAKO Hidekazu

理事・副学長
専門: 教育経営学(学校組織開発論)



森田 洋司 MORITA Yoji

鳴門教育大学特任教授 日本生徒指導学会会長
鳴門教育大学いじめ防止支援機構顧問
専門: 社会学
(教育社会学、犯罪社会学、社会病理学、生徒指導論)



阿形 恒秀 AGATA Tsunehide

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・教授
鳴門教育大学いじめ防止支援機構長
専門: 臨床教育学(生徒指導、教育相談、人権教育)



葛西 真記子 KASAI Makiko

人間教育専攻 臨床心理士養成コース・教授
鳴門教育大学生徒指導支援センター所長
専門: 臨床心理学
(自己心理学、学校臨床、ジェンダー、セクシュアリティ)



廣瀬 政雄 HIROSE Masao

教科・領域専攻 生活健康系コース(保健体育)・教授
鳴門教育大学心身健康センター所長
専門: 小児科学・血液腫瘍学・健康科学



久我 直人 KUGA Naoto

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・教授
専門: 学校経営実践論・学級経営実践論



小坂 浩嗣 KOSAKA Hirotosugu

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・教授
高度学校教育実践専攻
専門: 教育臨床心理学



阪根 健二 SAKANE Kenji

高度学校教育実践専攻 教員養成特別コース・教授
鳴門教育大学地域連携センター所長
専門: 学校教育学(生徒指導、学校危機管理、新聞活用教育)



吉井 健治 YOSHII Kenji

人間教育専攻 臨床心理士養成コース・教授
専門: 臨床心理学



小倉 正義 OGURA Masayoshi

人間教育専攻 臨床心理士養成コース・准教授
専門: 発達臨床心理学



末内 佳代 SUEUCHI Kayo

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・准教授
専門: 学校臨床心理学



池田 誠喜 IKEDA Seiki

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース准教授
専門: 生徒指導、学校教育相談



竹口 佳昭 TAKEGUCHI Yoshiaki

鳴門教育大学生徒指導支援センター研究員
専門: 学校臨床心理学



問合せ先

鳴門教育大学 いじめ防止支援機構(BP-CORE)
〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
TEL:088-687-6173 FAX:088-687-6108
Mail: satellitebp@naruto-u.ac.jp
Webページ:
<http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/bpcore.html>

福岡教育大学

檜崎 洋二郎 NARASAKI Yojiro

理事・副学長(国際交流・社会連携担当)
国際交流・留学生支援推進本部長、英語習得院長
専門: 地方教育行政



大坪 靖直 OHTSUBO Yasunao

教育科学専攻 学校心理コース・教授
教育総合研究所副所長
専門: (教育)教育社会心理学、(研究)社会心理学



西山 久子 NISHIYAMA Hisako

教職実践講座 専攻主任・教授
専門: 学校教育学、スクール・カウンセリング



小泉 令三 KOIZUMI Reizo

教職実践講座 生徒指導・教育相談リーダーコース主任・教授
専門: 学校心理学、生徒指導



村田 育也 MURATA Ikuya

教職実践講座 教育実践力開発コース主任・教授
専門: 教育工学、情報教育



金子 辰美 KANEKO Tatsumi

教職実践講座 特任教授
専門: 生徒指導、コーチング



平井 源樹 HIRAI Motoki

附属福岡小学校 教務主任・研究副部長
専門: 体育科教育



二串 英一 NIKUSHI Eiichi

附属福岡小学校 研究部長
専門: 算数科教育



藤岡 太郎 FUJIOKA Taro

附属福岡小学校 総括主任
専門: 社会科教育



問合せ先

福岡教育大学連携推進課
〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1番1号
TEL:0940-35-1004 FAX:0940-35-1700
Mail: rensuich@fukuoka-edu.ac.jp
Webページ: <https://bp.fukuoka-edu.ac.jp/>

平成 29 年度

BP (いじめ防止支援)

Bb (いじめ防止支援)

プロジェクトメンバー

プロジェクトメンバー

宮城教育大学

問合せ先 宮城教育大学 学長室

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL:022-214-3675 FAX:022-214-3309 Mail:gakuchoshitsu@adm.miyakyo-u.ac.jp

熊野 充利 KUMANO Mitsutoshi
連携担当理事・副学長
附属学校相談サポートチームリーダー



佐藤 静 SATO Shizuka
大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:臨床心理学(教育相談、心理支援)



本図 愛実 HONZU Manami
学長特別補佐
大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
専門:教育制度、学級・学校経営



植木田 潤 UEKIDA Jun
特別支援教育講座・准教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:発達障害学(二次障害の理解と対応、
教職員への支援)



久保 順也 KUBO Junya
学校教育講座教育心理学コース・准教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:臨床心理学(生徒指導、カウンセリング)



越中 康治 ETCHU Koji
学校教育講座教育心理学コース・准教授
教員キャリア研究機構・幼児教育(保幼小接続)
研究領域
専門:発達心理学(社会性・道徳性の発達)



野崎 義和 NOZAKI Yoshikazu
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域・講師
専門:特別支援教育



藤代 正倫 FUJISHIRO Masanori
学長付特任教授
専門:学級・学校経営、生徒指導
学外の役職:宮城県いじめ防止対策調査委員会委員長



上越教育大学

問合せ先 上越教育大学教育支援課 学校連携チーム

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

TEL:025-521-3279 FAX:025-521-3280 Mail:gakkoren@juen.ac.jp

Webページ: <http://www.juen.ac.jp/project/bpjuen/>

林 泰成 HAYASHI Yasunari
副学長
教育研究評議会評議員、大学院学校教育研究科・教授
専門:道徳教育、こころの教育



安藤 知子 ANDO Tomoko
大学院学校教育研究科・教授
学校教育実践研究センター・教授
専門:学校経営学(学校組織論、学年・学級経営論)



稲垣 応顕 INAGAKI Masaaki
大学院学校教育研究科・教授
専門:臨床教育学(生徒指導、教育カウンセリング)



早川 裕隆 HAYAKAWA Hiroataka
大学院学校教育研究科・教授
専門:道徳教育、こころの教育



高橋 知己 TAKAHASHI Tomomi
大学院学校教育研究科・准教授
専門:臨床教育学(特別活動論、学校心理学)



山田 智之 YAMADA Tomoyuki
大学院学校教育研究科・准教授
専門:臨床教育学(生徒指導、キャリア教育学)



清水 雅之 SHIMIZU Masayuki
学校教育実践研究センター・准教授
専門:情報教育、小学校(生活科・総合)教育



留目 宏美 TODOME Hiromi
大学院学校教育研究科・准教授
専門:養護学、養護教諭教育、学校組織論



鳴門教育大学

問合せ先 鳴門教育大学 いじめ防止支援機構(BP-CORE)
 〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
 TEL:088-687-6012 FAX:088-687-6108 Mail:satellitebp@naruto-u.ac.jp
 Webページ: <http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/bpcore.html>

佐古 秀一 SAKO Hidekazu

理事・副学長
 専門:教育経営学(学校組織開発論)



森田 洋司 MORITA Yoji

鳴門教育大学特任教授 日本生徒指導学会会長
 鳴門教育大学いじめ防止支援機構顧問
 専門:社会学
 (教育社会学、犯罪社会学、社会病理学、生徒指導論)



阿形 恒秀 AGATA Tsunehide

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・教授
 鳴門教育大学いじめ防止支援機構長
 専門:臨床教育学(生徒指導、教育相談、人権教育)



葛西 真記子 KASAI Makiko

人間教育専攻 臨床心理士養成コース・教授
 鳴門教育大学生徒指導支援センター所長
 専門:臨床心理学
 (自己心理学、学校臨床、ジェンダー、セクシュアリティ)



今田 雄三 IMADA Yuzo

人間教育専攻 臨床心理士養成コース・教授
 鳴門教育大学心身健康センター所長
 専門:精神医学



久我 直人 KUGA Naoto

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・教授
 専門:学校経営実践論・学級経営実践論



小坂 浩嗣 KOSAKA Hirotsugu

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・教授
 高度学校教育実践専攻長
 専門:教育臨床心理学



阪根 健二 SAKANE Kenji

高度学校教育実践専攻 教員養成特別コース・教授
 鳴門教育大学地域連携センター所長
 専門:学校教育学(生徒指導、学校危機管理、新聞活用教育)



吉井 健治 YOSHII Kenji

人間教育専攻 臨床心理士養成コース・教授
 専門:臨床心理学



池田 誠喜 IKEDA Seiki

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・准教授
 専門:生徒指導、学校教育相談



伊藤 弘道 ITO Hiromichi

特別支援教育専攻・准教授
 専門:発達支援医学、小児神経学、発達障害



小倉 正義 OGURA Masayoshi

人間教育専攻 臨床心理士養成コース・准教授
 専門:発達臨床心理学



末内 佳代 SUEUCHI Kayo

高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・准教授
 専門:学校臨床心理学



竹口 佳昭 TAKEGUCHI Yoshiaki

鳴門教育大学生徒指導支援センター研究員
 専門:学校臨床心理学



福岡教育大学

問合せ先 福岡教育大学連携推進課
 〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1番1号
 TEL:0940-35-1004 FAX:0940-35-1700 Mail:rensuich@fukuoka-edu.ac.jp
 Webページ: <https://bp.fukuoka-edu.ac.jp/>

川添 弘人 KAWAZOE Hiroto

理事・副学長(国際交流・社会連携担当)
 国際交流・留学生支援推進本部長、英語習得院長
 専門:地方教育行政



大坪 靖直 OHTSUBO Yasunao

教育科学専攻 学校心理コース・教授
 教育総合研究所副所長
 専門:(教育)教育社会心理学、(研究)社会心理学



西山 久子 NISHIYAMA Hisako

教職実践講座 教授
 専門:学校教育学、スクール・カウンセリング



小泉 令三 KOIZUMI Reizo

教職実践講座 教授
 専門:学校心理学、生徒指導



村田 育也 MURATA Ikuya

教職実践講座 教授
 専門:教育工学、情報教育



金子 辰美 KANEKO Tatsumi

教職実践講座 特任教授
 専門:生徒指導、コーチング



平井 源樹 HIRAI Motoki

附属福岡小学校 教頭
 担当:体育科教育



二串 英一 NIKUSHI Eiichi

附属福岡小学校 研究部長
 担当:算数科教育



齋藤 淳 SAITO Jun

附属福岡小学校 教務主任・研究副部長
 担当:社会科教育、総合的な学習の時間



平成30年度

BP (いじめ防止支援)

Bb (いじめ被害支援)

プロジェクトメンバー

プロジェクトメンバー

宮城教育大学

問合せ先 宮城教育大学 戦略推進室

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149

Tel:022-214-3675 Fax:022-214-3400 Mail:senryaku@adm2.miyakyo-u.ac.jp

岡 正明 OKA Masaaki

連携担当理事・副学長
附属学校相談サポートチームリーダー



佐藤 静 SATO Shizuka

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:臨床心理学(教育相談、心理支援)



本図 愛実 HONZU Manami

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
専門:教育制度、学級・学校経営



植木田 潤 UEKIDA Jun

特別支援教育講座発達障害教育コース・教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:発達障害学(二次障害の理解と対応、
教職員への支援)



久保 順也 KUBO Junya

学校教育講座教育心理学コース・准教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:臨床心理学(生徒指導、カウンセリング)



越中 康治 ETCHU Koji

学校教育講座教育心理学コース・准教授
教員キャリア研究機構・幼児教育(保幼小接続)
研究領域
専門:発達心理学(社会性・道徳性の発達)



野崎 義和 NOZAKI Yoshikazu

特別支援教育講座発達障害教育コース・講師
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:特別支援教育



上越教育大学

問合せ先 上越教育大学教育支援課

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

Tel:025-521-3273 Fax:025-521-3280 Mail:kyokikak@juen.ac.jp

Webページ: <http://www.juen.ac.jp/project/bpjuen/>

林 泰成 HAYASHI Yasunari

副学長
教育研究評議会評議員、大学院学校教育研究科・教授
専門:道徳教育、こころの教育



安藤 知子 ANDO Tomoko

大学院学校教育研究科・教授
学校教育実践研究センター・教授
専門:学校経営学(学校組織論、学年・学級経営論)



稲垣 応顕 INAGAKI Masaaki

大学院学校教育研究科・教授
専門:臨床教育学(生徒指導、教育カウンセリング)



早川 裕隆 HAYAKAWA Hiroataka

大学院学校教育研究科・教授
専門:道徳教育、こころの教育



高橋 知己 TAKAHASHI Tomomi

大学院学校教育研究科・教授
専門:臨床教育学(特別活動論、学校心理学)



山田 智之 YAMADA Tomoyuki

大学院学校教育研究科・准教授
専門:臨床教育学(生徒指導、キャリア教育学)



清水 雅之 SHIMIZU Masayuki

学校教育実践研究センター・准教授
専門:情報教育、小学校(生活科・総合)教育



留目 宏美 TODOME Hiromi

大学院学校教育研究科・准教授
専門:養護学、養護教諭教育、学校組織論



村中 智彦 MURANAKA Tomohiko

大学院学校教育研究科・准教授
専門:特別支援教育



蜂須賀 洋一 HACHISUGA Yoichi

大学院学校教育研究科・講師
専門:学校教育学(法規範教育、人権教育)



鳴門教育大学

問合せ先 鳴門教育大学 いじめ防止支援機構(BP-CORE)

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
Tel:088-687-6012 Fax:088-687-6108 Mail:satellitebp@naruto-u.ac.jp
Webページ: <http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/bpcore.html>

佐古 秀一 SAKO Hidekazu
理事・副学長
専門:教育経営学(学校組織開発論)



森田 洋司 MORITA Yoji
特任教授 日本生徒指導学会会長
いじめ防止支援機構顧問
専門:社会学
(教育社会学、犯罪社会学、社会病理学、生徒指導論)



阿形 恒秀 AGATA Tsunehide
高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・教授
いじめ防止支援機構長
専門:臨床教育学(生徒指導、教育相談、人権教育)



葛西 真記子 KASAI Makiko
人間教育専攻 臨床心理士養成コース・教授
生徒指導支援センター所長
専門:臨床心理学
(自己心理学、学校臨床、ジェンダー、セクシュアリティ)



伊藤 弘道 ITO Hiromich
特別支援教育専攻・教授
心身健康センター所長
専門:発達支援医学、小児神経学、発達障害



久我 直人 KUGA Naoto
高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・教授
専門:学校経営実践論・学級経営実践論



小坂 浩嗣 KOSAKA Hirotosugu
高度学校教育実践専攻 教員養成特別コース・教授
高度学校教育実践専攻長
専門:教育臨床心理学



阪根 健二 SAKANE Kenji
高度学校教育実践専攻 教員養成特別コース・教授
地域連携センター所長
専門:学校教育学(生徒指導、学校危機管理、新聞活用教育)



末内 佳代 SUEUCHI Kayo
高度学校教育実践専攻 教員養成特別コース・教授
専門:学校臨床心理学



吉井 健治 YOSHII Kenji
人間教育専攻 臨床心理士養成コース・教授
専門:臨床心理学



池田 誠喜 IKEDA Seiki
高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース・准教授
専門:生徒指導、学校教育相談



小倉 正義 OGURA Masayoshi
人間教育専攻 臨床心理士養成コース・准教授
専門:発達臨床心理学



竹口 佳昭 TAKEGUCHI Yoshiaki
生徒指導支援センター研究員
専門:学校臨床心理学



福岡教育大学

問合せ先 福岡教育大学連携推進課

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1番1号
Tel:0940-35-1004 Fax:0940-35-1700 Mail:rensuich@fukuoka-edu.ac.jp
Webページ: <https://bp.fukuoka-edu.ac.jp/>

川添 弘人 KAWAZOE Hiroto
理事・副学長(国際交流・社会連携担当)
国際交流・留学生支援推進部長、英語習得院長
専門:地方教育行政



大坪 靖直 OHTSUBO Yasunao
教育科学専攻 教育心理学領域・教授
教育総合研究所副所長
専門:(教育)教育社会心理学、(研究)社会心理学



西山 久子 NISHIYAMA Hisako
教職実践講座 教授
専門:学校教育学、スクール・カウンセリング



小泉 令三 KOIZUMI Reizo
教職実践講座 教授
専門:学校心理学、生徒指導



村田 育也 MURATA Ikuya
教職実践講座 教授
専門:教育工学、情報教育



金子 辰美 KANEKO Tatsumi
教職実践講座 特任教授
専門:生徒指導、コーチング



坂本 憲明 SAKAMOTO Noriaki
教育科学専攻 理科教育領域・教授
附属福岡中学校 校長
専門:理科教育



岩村 慶悟 IWAMURA Keigo
附属福岡中学校 教頭
担当:美術



姫島 和久 HIMESHIMA Kazuhisa
附属福岡中学校 研究主任
担当:技術・家庭(技術分野)



久永 美穂 HISANAGA Miho
附属福岡中学校 BPプロジェクト担当
担当:技術・家庭(家庭分野)



令和元年度

BP (いじめ防止支援)

Bb (いじめ被害支援)

プロジェクトメンバー

プロジェクトメンバー

宮城教育大学

問合せ先 宮城教育大学 研究・連携推進課

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149

Tel:022-214-3709 Fax:022-214-3342 Mail:renkei@adm.miyakyo-u.ac.jp

岡 正明 OKA Masaaki

連携担当理事・副学長



佐藤 静 SATO Shizuka

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:臨床心理学(教育相談、心理支援)



本図 愛実 HONZU Manami

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
専門:教育制度、学級・学校経営



植木田 潤 UEKIDA Jun

特別支援教育講座発達障害教育コース・教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:発達障害学(二次障害の理解と対応、
教職員への支援)



久保 順也 KUBO Junya

学校教育講座教育心理学コース・准教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:臨床心理学(生徒指導、カウンセリング)



越中 康治 ETCHU Koji

学校教育講座教育心理学コース・准教授
教員キャリア研究機構・幼児教育(保幼小接続)
研究領域
専門:発達心理学(社会性・道徳性の発達)



野崎 義和 NOZAKI Yoshikazu

特別支援教育講座発達障害教育コース・講師
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門:特別支援教育



上越教育大学

問合せ先 上越教育大学教育支援課 教務推進チーム

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

Tel:025-521-3273 Fax:025-521-3280 Mail:kyokikak@juen.ac.jp

Webページ: <http://www.juen.ac.jp/project/bpjuen/>

中山 勸次郎 NAKAYAMA Kanjiro

副学長
大学院学校教育研究科・教授
専門:学習心理学



林 泰成 HAYASHI Yasunari

大学院学校教育研究科・教授
専門:道徳教育、こころの教育



稲垣 応顕 INAGAKI Masaaki

大学院学校教育研究科・教授
専門:臨床教育学(生徒指導、教育カウンセリング)



早川 裕隆 HAYAKAWA Hiroataka

大学院学校教育研究科・教授
専門:道徳教育、こころの教育



高橋 知己 TAKAHASHI Tomomi

大学院学校教育研究科・教授
専門:臨床教育学(特別活動論、学校心理学)



村中 智彦 MURANAKA Tomohiko

大学院学校教育研究科・教授
専門:特別支援教育



山田 智之 YAMADA Tomoyuki

大学院学校教育研究科・准教授
専門:臨床教育学(生徒指導、キャリア教育学)



留目 宏美 TODOME Hiromi

大学院学校教育研究科・准教授
専門:養護学、養護教諭教育、学校組織論



蜂須賀 洋一 HACHISUGA Yoichi

大学院学校教育研究科・講師
専門:学校教育学(法規範教育、人権教育)



鳴門教育大学

問合せ先 鳴門教育大学 いじめ防止支援機構(BP-CORE)

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
Tel:088-687-6034 Fax:088-687-6108 Mail:satellitebp@naruto-u.ac.jp
Webページ:http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/bpcore.html

佐古 秀一 SAKO Hidekazu

理事・副学長
専門:教育経営学(学校組織開発論)



森田 洋司 MORITA Yoji

特任教授 日本生徒指導学会会長
いじめ防止支援機構顧問
専門:社会学
(教育社会学、犯罪社会学、社会病理学、生徒指導論)



阿形 恒秀 AGATA Tsunehide

高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・教授
いじめ防止支援機構長
専門:臨床教育学(生徒指導、教育相談、人権教育)



葛西 真記子 KASAI Makiko

人間教育専攻 心理臨床コース・教授
人間教育専攻長
専門:臨床心理学
(自己心理学、学校臨床、ジェンダー、セクシュアリティ)



伊藤 弘道 ITO Hiromich

高度学校教育実践専攻 子ども発達支援コース・教授
心身健康センター所長
専門:発達支援医学、小児神経学、発達障害



久我 直人 KUGA Naoto

高度学校教育実践専攻 学校づくりマネジメントコース・教授
専門:学校経営実践論・学級経営実践論



小坂 浩嗣 KOSAKA Hirotosugu

高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・教授
高度学校教育実践専攻長(教職系)
専門:教育臨床心理学



阪根 健二 SAKANE Kenji

高度学校教育実践専攻 学校づくりマネジメントコース・教授
地域連携センター所長
専門:学校教育学(生徒指導、学校危機管理、新聞活用教育)



末内 佳代 SUEUCHI Kayo

高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・教授
専門:学校臨床心理学



吉井 健治 YOSHII Kenji

人間教育専攻 心理臨床コース・教授
生徒指導支援センター所長
専門:臨床心理学



池田 誠喜 IKEDA Seiki

高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・准教授
専門:生徒指導、学校教育相談



小倉 正義 OGURA Masayoshi

人間教育専攻 心理臨床コース・准教授
専門:発達臨床心理学



竹口 佳昭 TAKEGUCHI Yoshiaki

生徒指導支援センター研究員
専門:学校臨床心理学



福岡教育大学

問合せ先 福岡教育大学連携推進課

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1番1号
Tel:0940-35-1227 Fax:0940-35-1700 Mail:soumhosafukuoka-edu.ac.jp
Webページ:https://bp.fukuoka-edu.ac.jp/

川添 弘人 KAWAZOE Hiroto

理事・副学長(国際交流・社会連携担当)
国際交流・留学生支援推進本部長、英語習得院長
専門:地方教育行政



大坪 靖直 OHTSUBO Yasunao

副学長(大学改革・学事総括・評価担当)
教育科学専攻 教育心理学領域・教授
専門:(教育)教育社会心理学、(研究)社会心理学



西山 久子 NISHIYAMA Hisako

教職実践専攻 教授
専門:学校教育学、スクール・カウンセリング



小泉 令三 KOIZUMI Reizo

教職実践専攻 教授
専門:学校心理学、生徒指導



村田 育也 MURATA Ikuya

教職実践専攻 教授
専門:教育工学、情報教育



金子 辰美 KANEKO Tatsumi

教職実践専攻 特任教授
専門:生徒指導、コーチング



坂本 憲明 SAKAMOTO Noriaki

附属福岡中学校 校長
教育科学専攻 理科教育領域・教授
専門:理科教育



岩村 慶悟 IWAMURA Keigo

附属福岡中学校 教頭
BPプロジェクト担当
担当:美術



井上 正成 INOUE Masanari

附属福岡中学校 教務主任
BPプロジェクト担当
担当:社会



中嶋 裕哉 NAKASHIMA Yuya

附属福岡中学校 3学年主任
BPプロジェクト担当
担当:数学



山田 健司 YAMADA Takeshi

附属福岡中学校 人権教育主任
BPプロジェクト担当
担当:数学



篠田 穰 SHINODA Minoru

附属福岡中学校 BPプロジェクト担当
担当:社会



令和2年度

BP (いじめ防止支援)

Bb (いじめ防止支援)

プロジェクトメンバー

プロジェクトメンバー

宮城教育大学

問合せ先 宮城教育大学 研究・連携推進課
〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149
Tel: 022-214-3709 Fax: 022-214-3342 Mail: renkei@adm.miyakyo-u.ac.jp
Webページ: <http://bppj.miyakyo-u.ac.jp/wp/>

岡 正明 OKA Masaaki
連携担当理事・副学長



佐藤 静 SATO Shizuka
大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門: 臨床心理学(教育相談、心理支援)



本図 愛実 HONZU Manami
大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
専門: 教育制度、学級・学校経営



植木田 潤 UEKIDA Jun
特別支援教育講座発達障害教育コース・教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門: 発達障害学(二次障害の理解と対応、
教職員への支援)



久保 順也 KUBO Junya
大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・准教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門: 臨床心理学(生徒指導、カウンセリング)



越中 康治 ETCHU Koji
大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・准教授
教員キャリア研究機構・幼児教育(保幼小接続)研究領域
専門: 発達心理学(社会性・道徳性の発達)



野崎 義和 NOZAKI Yoshikazu
特別支援教育講座発達障害教育コース・准教授
教員キャリア研究機構・特別支援教育研究領域
専門: 特別支援教育



上越教育大学

問合せ先 上越教育大学教育支援課 教務推進チーム
〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地
Tel: 025-521-3273 Fax: 025-521-3280 Mail: kyokikak@juen.ac.jp
Webページ: <http://www.juen.ac.jp/project/bpjuen/>

中山 勳次郎 NAKAYAMA Kanjiro
理事・副学長
大学院学校教育研究科・教授
専門: 学習心理学



林 泰成 HAYASHI Yasunari
大学院学校教育研究科・教授
専門: 道徳教育、こころの教育



稲垣 応顕 INAGAKI Masaaki
大学院学校教育研究科・教授
専門: 臨床教育学(生徒指導、教育カウンセリング)



高橋 知己 TAKAHASHI Tomomi
大学院学校教育研究科・教授
専門: 臨床教育学(特別活動論、学校心理学)



山田 智之 YAMADA Tomoyuki
大学院学校教育研究科・教授
専門: 臨床教育学(生徒指導、キャリア教育学)



村中 智彦 MURANAKA Tomohiko
大学院学校教育研究科・教授
専門: 特別支援教育



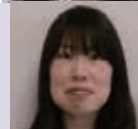
留目 宏美 TODOME Hiromi
大学院学校教育研究科・准教授
専門: 養護学、養護教諭教育、学校組織論



蜂須賀 洋一 HACHISUGA Yoichi
大学院学校教育研究科・准教授
専門: 学校教育学(法規範教育、人権教育)



岩本 佳世 IWAMOTO Kayo
大学院学校教育研究科・助教
専門: 特別支援教育



鳴門教育大学

問合せ先 鳴門教育大学 いじめ防止支援機構(BP-CORE)

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
Tel: 088-687-6101 Fax: 088-687-6100 Mail: satellitebp@naruto-u.ac.jp
Webページ: <http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/bpcore.html>

佐古 秀一 SAKO Hidekazu

理事・副学長
専門: 教育経営学(学校組織開発論)



美馬 持仁 MIMA Yoshihito

理事・副学長



葛西 真記子 KASAI Makiko

人間教育専攻 心理臨床コース・教授
人間教育専攻長
専門: 臨床心理学(自己心理学、学校臨床、ジェンダー、セクシュアリティ)



阿形 恒秀 AGATA Tsunehide

高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・教授
いじめ防止支援機構長
専門: 臨床教育学(生徒指導、教育相談、人権教育)



伊藤 弘道 ITO Hiromichi

高度学校教育実践専攻 子ども発達支援コース・教授
心身健康センター所長
専門: 発達支援医学、小児神経学、発達障害



山崎 勝之 YAMASAKI Katsuyuki

人間教育専攻 心理臨床コース・特命教授
専門: パーソナリティ心理学、学校での予防的介入



小坂 浩嗣 KOSAKA Hirotsugu

高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・教授
高度学校教育実践専攻長(教職系)
専門: 教育臨床心理学



久我 直人 KUGA Naoto

高度学校教育実践専攻 学校づくりマネジメントコース・教授
専門: 学校経営実践論・学級経営実践論



末内 佳代 SUEUCHI Kayo

高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・教授
専門: 学校臨床心理学



阪根 健二 SAKANE Kenji

高度学校教育実践専攻 学校づくりマネジメントコース・特命教授
専門: 学校教育学(生徒指導、学校危機管理、新聞活用教育)



池田 誠喜 IKEDA Seiki

高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・准教授
専門: 生徒指導、学校教育相談



吉井 健治 YOSHII Kenji

人間教育専攻 心理臨床コース・教授
生徒指導支援センター所長
専門: 臨床心理学



内田 香奈子 UCHIDA Kanako

人間教育専攻 心理臨床コース・准教授
予防教育科学センター所長
専門: 学校心理学、感情教育



小倉 正義 OGURA Masayoshi

人間教育専攻 心理臨床コース・准教授
専門: 発達臨床心理学



山西 健斗 YAMANISHI Kento

生徒指導支援センター研究員
専門: 学校臨床心理学



福岡教育大学

問合せ先 福岡教育大学連携推進課

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1番1号
Tel: 0940-35-1227 Fax: 0940-35-1700 Mail: soumhosa@fukuoka-edu.ac.jp
Webページ: <https://bp.fukuoka-edu.ac.jp/>

川添 弘人 KAWAZOE Hiroto

理事・副学長(国際交流・社会連携担当)
国際交流・留学生支援推進本部長、英語習得院長
専門: 地方教育行政



大坪 靖直 OHTSUBO Yasunao

副学長(大学改革・学事総括・評価担当)
教育学専攻 教育心理学領域・教授
専門: (教育)教育社会心理学、(研究)社会心理学



西山 久子 NISHIYAMA Hisako

教職実践専攻 教授
専門: 学校教育学、スクール・カウンセリング



小泉 令三 KOIZUMI Reizo

教職実践専攻 教授
専門: 学校心理学、生徒指導



村田 育也 MURATA Ikuya

教職実践専攻 教授
専門: 教育工学、情報教育



川島 耕司 KAWASHIMA Koji

教職実践専攻 特任教授
専門: 社会科教育、生活科教育



坂本 憲明 SAKAMOTO Noriaki

附属福岡中学校 校長
教育学専攻 理科教育領域・教授
専門: 理科教育



山邊 孝之 YAMABE Takayuki

附属福岡中学校 副校長
BPプロジェクト担当
担当: 理科



西村 紀彦 NISHIMURA Norihiko

附属福岡中学校 教頭
BPプロジェクト担当
担当: 理科



山田 健司 YAMADA Takeshi

附属福岡中学校 教務主任
BPプロジェクト担当
担当: 数学



堀居 太郎 HORII Taro

附属福岡中学校 人権教育主任
BPプロジェクト担当
担当: 外国語



森本 智子 MORIMOTO Tomoko

附属福岡中学校 生徒指導主事
BPプロジェクト担当
担当: 国語



篠田 穂 SHINODA Minoru

附属福岡中学校 2学年主任
BPプロジェクト担当
担当: 社会



高橋 典弘 TAKAHASHI Norihiro

附属福岡中学校 情報・ホームページ担当
BPプロジェクト担当
担当: 技術



令和3年度

BP (いじめ防止支援)

Bb (いじめ防止支援)

プロジェクトメンバー

プロジェクトメンバー

宮城教育大学

問合せ先 宮城教育大学 共創支援課

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149

Tel: 022-214-3709 Fax: 022-214-3342 Mail: k-kikaku@adm2.miyakyo-u.ac.jp

Webページ: <https://sites.google.com/staff.miyakyo-u.ac.jp/bpproject/top>

岡 正明 OKA Masaaki

連携担当理事・副学長



佐藤 静 SATO Shizuka

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・特任教授



本図 愛実 HONZU Manami

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授
専門: 教育制度、学級・学校経営



植木田 潤 UEKIDA Jun

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・教授



久保 順也 KUBO Junya

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・准教授



越中 康治 ETCHU Koji

大学院教育学研究科専門職学位課程
高度教職実践専攻・准教授



野崎 義和 NOZAKI Yoshikazu

教育学部・准教授



上越教育大学

問合せ先 上越教育大学いじめ・生徒指導研究センター

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

Tel: 025-521-3258 Fax: 025-521-3621 Mail: j-rbgc@juen.ac.jp

Webページ: <http://www.juen.ac.jp/project/bpjuen/>

高橋 知己 TAKAHASHI Tomomi

大学院学校教育研究科専門職学位課程
現代教育課題研究コース(道徳・生徒指導領域)・教授
いじめ・生徒指導研究センター長
専門: 特別活動、学校心理学



辻村 貴洋 TSUJIMURA Takahiro

大学院学校教育研究科専門職学位課程
現代教育課題研究コース(発達と教育連携領域)・准教授
専門: 教育制度、地方教育行政



蜂須賀 洋一 HACHISUGA Yoichi

大学院学校教育研究科専門職学位課程
現代教育課題研究コース(発達と教育連携領域)・准教授
専門: 生徒指導、人権教育



鳴門教育大学

問合せ先 鳴門教育大学 いじめ防止支援機構 (BP-CORE)

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
 Tel: 088-687-6101 Fax: 088-687-6100 Mail: satellitebp@naruto-u.ac.jp
 Webページ: <http://www.naruto-u.ac.jp/research/bpproject/bpcore.html>

佐古 秀一 SAKO Hidekazu 理事・副学長 専門: 教育経営学 (学校組織開発論)		美馬 持仁 MIMA Yoshihito 理事・副学長	
葛西 真記子 KASAI Makiko 人間教育専攻 心理臨床コース・教授 人間教育専攻長 専門: 臨床心理学 (自己心理学、学校臨床、ジェンダー、セクシュアリティ)		吉井 健治 YOSHII Kenji 人間教育専攻 心理臨床コース・教授 生徒指導支援センター所長 専門: 臨床心理学	
伊藤 弘道 ITO Hiromichi 高度学校教育実践専攻 子ども発達支援コース・教授 心身健康センター所長 専門: 発達支援医学、小児神経学、発達障害		久我 直人 KUGA Naoto 高度学校教育実践専攻 学校づくりマネジメントコース・教授 専門: 学校経営実践論・学級経営実践論	
小坂 浩嗣 KOSAKA Hirotsugu 高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・教授 高度学校教育実践専攻長 (教職系) 専門: 教育臨床心理学		池田 誠喜 IKEDA Seiki 高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・教授 いじめ防止支援機構長 専門: 生徒指導、学校教育相談	
山崎 勝之 YAMASAKI Katsuyuki 人間教育専攻 心理臨床コース・特命教授 専門: パーソナリティ心理学、学校での予防的介入		阪根 健二 SAKANE Kenji 高度学校教育実践専攻 学校づくりマネジメントコース・特命教授 専門: 学校教育学 (生徒指導、学校危機管理、新聞活用教育)	
阿形 恒秀 AGATA Tsunehide 高度学校教育実践専攻 生徒指導コース・特命教授 専門: 臨床教育学 (生徒指導、教育相談、人権教育)		小倉 正義 OGURA Masayoshi 人間教育専攻 心理臨床コース・准教授 発達臨床センター所長 専門: 発達臨床心理学	
内田 香奈子 UCHIDA Kanako 人間教育専攻 心理臨床コース・准教授 予防教育科学センター所長 専門: 学校心理学、感情教育		山西 健斗 YAMANISHI Kento 生徒指導支援センター研究員 専門: 学校臨床心理学	

福岡教育大学

問合せ先 福岡教育大学連携推進課

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1番1号
 Tel: 0940-35-1227 Fax: 0940-35-1700 Mail: soumhosa@fukuoka-edu.ac.jp
 Webページ: <https://bp.fukuoka-edu.ac.jp/>

木原 茂 KIHARA Shigeru 理事・副学長 (国際交流・社会連携担当) 国際交流・留学生支援推進部長、英語習得院長 専門: 地方教育行政		大坪 靖直 OHTSUBO Yasunao 副学長 (大学改革・学事総括・評価担当) 教育科学専攻 教育心理学領域・教授 専門: (教育) 教育社会心理学、(研究) 社会心理学	
西山 久子 NISHIYAMA Hisako 教職実践専攻 教授 専門: 学校教育学、スクール・カウンセリング		小泉 令三 KOIZUMI Reizo 教職実践専攻 教授 専門: 学校心理学、生徒指導	
村田 育也 MURATA Ikuya 教職実践専攻 教授 専門: 教育工学、情報教育		川島 耕司 KAWASHIMA Koji 教職実践専攻 特任教授 専門: 社会科教育、生活科教育	
芋生 修一 IMOO Syuichi 教職実践専攻 特任教授 専門: 社会科教育、道徳教育、人材育成		坂井 清隆 SAKAI Kiyotaka 教職実践専攻 准教授 教育実践力開発コース主任 専門: 教育方法学、社会科教育	
相澤 宏充 AIZAWA Hiromitsu 附属福岡中学校 校長 専門: 聴覚障害学、聴覚障害心理学		山邊 孝之 YAMABE Takayuki 附属福岡中学校 副校長 BPプロジェクト担当 担当: 理科	
西村 紀彦 NISHIMURA Norihiko 附属福岡中学校 教頭 BPプロジェクト担当 担当: 理科		山田 健司 YAMADA Takeshi 附属福岡中学校 教務主任 BPプロジェクト担当 担当: 数学	
重松 太郎 SHIGEMATSU Taro 附属福岡中学校 人権・キャリア教育担当 BPプロジェクト担当 担当: 理科		篠田 稜 SHINODA Minoru 附属福岡中学校 3学年主任 BPプロジェクト担当 担当: 社会	
高橋 典弘 TAKAHASHI Norihiro 附属福岡中学校 ICT機器管理・HP担当 BPプロジェクト担当 担当: 技術		加藤 晋也 KATO Shinya 附属福岡中学校 教育実習主任 BPプロジェクト担当 担当: 数学	
横光 雄介 YOKOMITSU Yusuke 附属福岡中学校 生徒指導主事 BPプロジェクト担当 担当: 社会			

いじめ防止支援プロジェクト（BPプロジェクト）事業成果報告書

2022年3月16日 発行

編集・発行／BPプロジェクト事務局

（国立大学法人 鳴門教育大学学術情報推進課内）

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
